

ヒヤリ・ハット調査  
「乳幼児の転落・転倒による危険」  
(インターネットアンケート)

平成 26 年 10 月

東京都生活文化局消費生活部

## 目 次

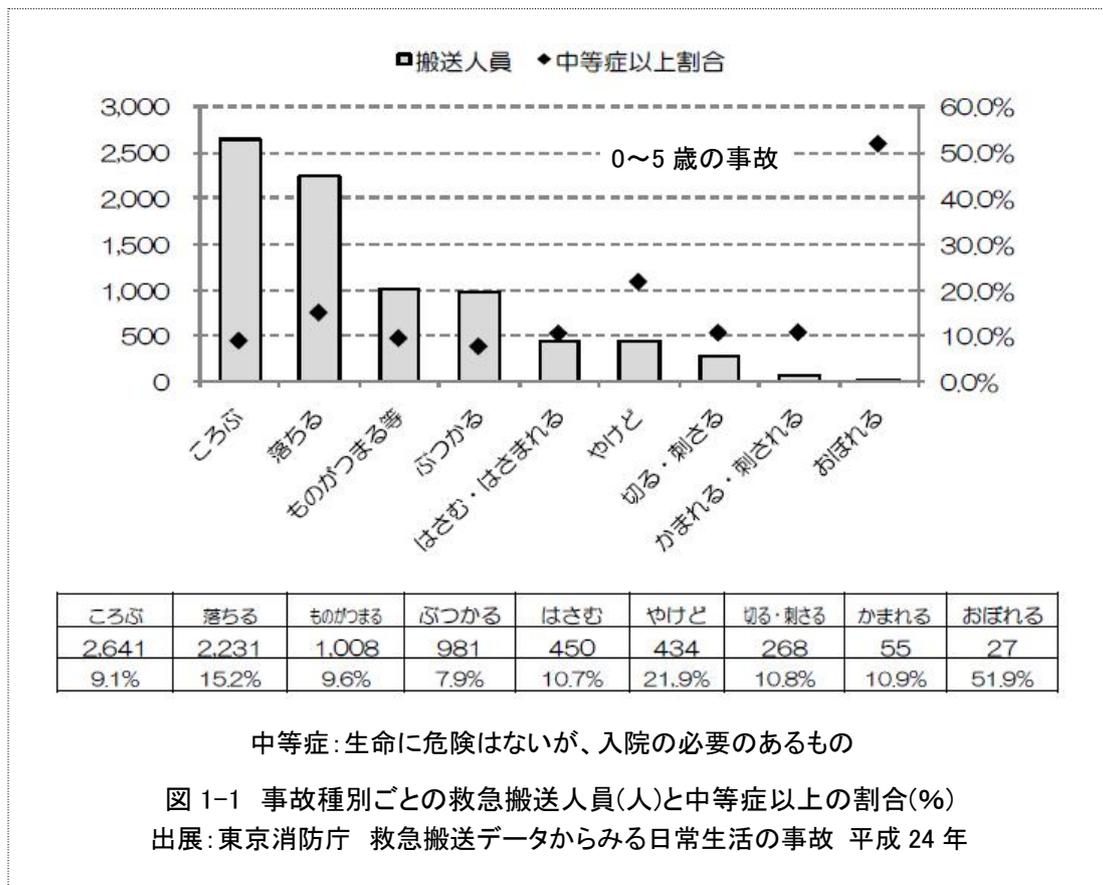
1	調査目的	1
2	調査概要	2
	(1) 調査対象	2
	(2) 調査期間	2
	(3) 調査方法	2
	(4) 調査内容	2
	(5) 回答者の属性	2
	(6) 回答者の子供の属性	3
3	調査結果	4
	(1) 転落・転倒経験の有無	4
	ア 全体の傾向	4
	イ 製品等別 転落・転倒経験の有無	5
	(2) 転落・転倒時の年齢・性別	6
	ア 全体の傾向	6
	イ 年齢別 転落・転倒が多い製品等	7
	(3) 医療機関の受診状況	9
	ア 全体の傾向	9
	イ 転落・転倒により医療機関の受診が多い製品等	10
	ウ 年齢別 転落・転倒により医療機関の受診が多い製品等	11
	(4) 転落・転倒を経験していない保護者が、危ないと感じた製品等	12
	ア 全体の傾向	12
	イ 保護者が危ないと感じた割合が高い製品等	12
	(5) 場所別 転落・転倒の事例	13
	ア 家の居室	13
	イ 家の居室以外	33
	ウ 家の外	49
	(6) 危ないと思っている製品等	65
4	まとめ	69
5	結果の活用	69

## 1 調査目的

日常生活で経験した「ヒヤリ・ハット」経験はどこにも情報提供されることなく多数埋もれていることから、都では、危害危険情報を積極的に掘り起こすため、ヒヤリ・ハット調査を実施している。

今回は、乳幼児の事故のうち、転落・転倒をテーマに、危害やヒヤリ・ハットを調査した。

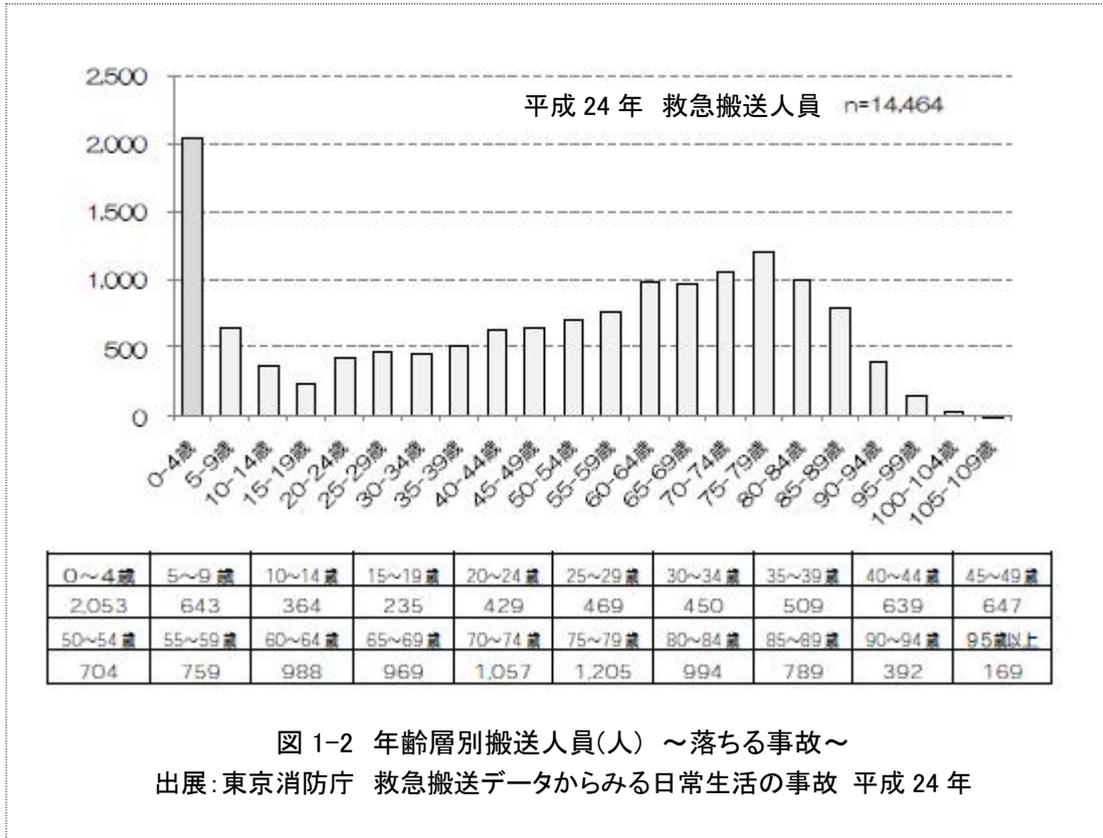
東京消防庁「救急搬送データからみる日常生活の事故 平成 24 年」によると、「ころぶ」「落ちる」ことで救急搬送される 0～5 歳児の人数は多い。(図 1-1 参照)



また、落ちる事故で救急搬送される年齢区分では、0～4 歳の割合が最も高く、搬送人員は突出している。(図 1-2 参照)

以上から、乳幼児が転落・転倒事故にあい、ケガをする危険性は高いと推察する。

この調査は、①乳幼児の保護者等に注意喚起を行うこと、②関連製品の製造・輸入・販売事業者等に対し、安全な製品の供給に役立てるための情報提供が目的である。



## 2 調査概要

次のとおり、基本調査と事例調査を実施した。

### (1) 調査対象

東京都在住で乳幼児と同居する保護者 3,000 人

### (2) 調査期間

平成 26 年 1 月 30 日～平成 26 年 2 月 12 日

### (3) 調査方法

インターネットによるアンケート形式で実施

### (4) 調査内容

家の居室、家の居室以外、家の外に分けて、製品等毎に乳幼児の転落・転倒の経験等を調査した。また、乳幼児が利用しているもので、普段から危険を感じている商品・場所・サービスを合わせて調査した。

### (5) 回答者の属性

回答者の年代別割合は表 2-1 のとおりであり、いずれも東京都在住の乳幼児と同居する保護者である。

表 2-1 回答者の属性

	男性(人)	女性(人)	合計(人)
20歳代	24	129	153
年代別割合	1%	4%	5%
30歳代	626	1,002	1,628
年代別割合	21%	33%	54%
40歳代	772	412	1,184
年代別割合	26%	14%	39%
50歳代	32	2	34
年代別割合	1%	0%	1%
60歳代	1	0	1
年代別割合	0%	0%	0%
合計(人)	1,455	1,545	3,000
年代別割合	49%	52%	100%

(6) 回答者の子供の属性

回答者と同居する乳幼児の性別・年齢等構成は、表 2-2 のとおりである。  
件数は子供の人数と異なる。

表 2-2 回答者の子供の属性(件)

	男の子	女の子	合計
6ヶ月未満	68	49	117
構成区分割合(%)	1%	1%	2%
6ヶ月～1歳未満	160	122	282
構成区分割合(%)	3%	3%	6%
1歳	241	285	526
構成区分割合(%)	5%	6%	11%
2歳	272	299	571
構成区分割合(%)	6%	6%	12%
3歳	278	372	650
構成区分割合(%)	6%	8%	13%
4歳	261	304	565
構成区分割合(%)	5%	6%	12%
5歳	277	318	595
構成区分割合(%)	6%	7%	12%
6歳(但し、小学校就学前)	248	305	553
構成区分割合(%)	5%	6%	11%
小学生以上	504	458	962
構成区分割合(%)	10%	10%	20%
合計(人)	2,309	2,512	4,821
構成区分割合(%)	48%	52%	100%

■ 危害

転落・転倒をしてケガをした事例

■ ヒヤリ・ハット

ケガはしないが転落・転倒した、しそうな事例

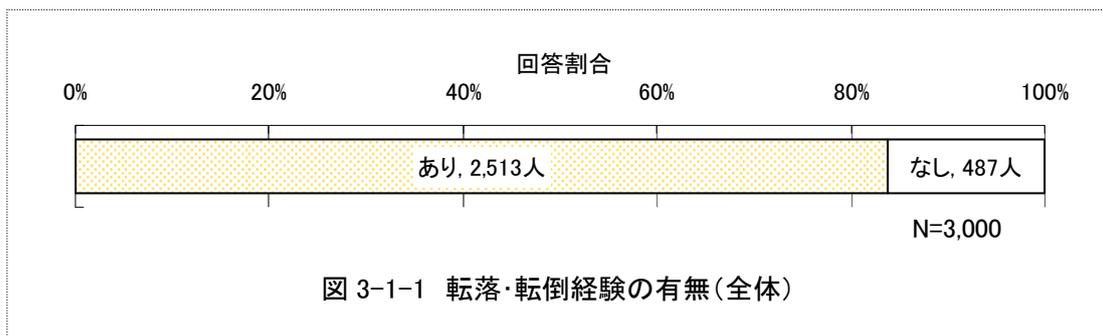
### 3 調査結果

#### (1) 転落・転倒経験の有無

##### ア 全体の傾向

「図 3-1-1」は、3,000 人の保護者から回答を受けた、乳幼児の転落・転倒経験の有無を集計した結果である。どちらの経験もないのは、保護者の 16% (487 人) である。多くの保護者に、自分の子供が乳幼児時に転落・転倒「した」「しそうになった」経験があることが示された。

乳幼児の転落・転倒の危険は、身近なものであるといえる。

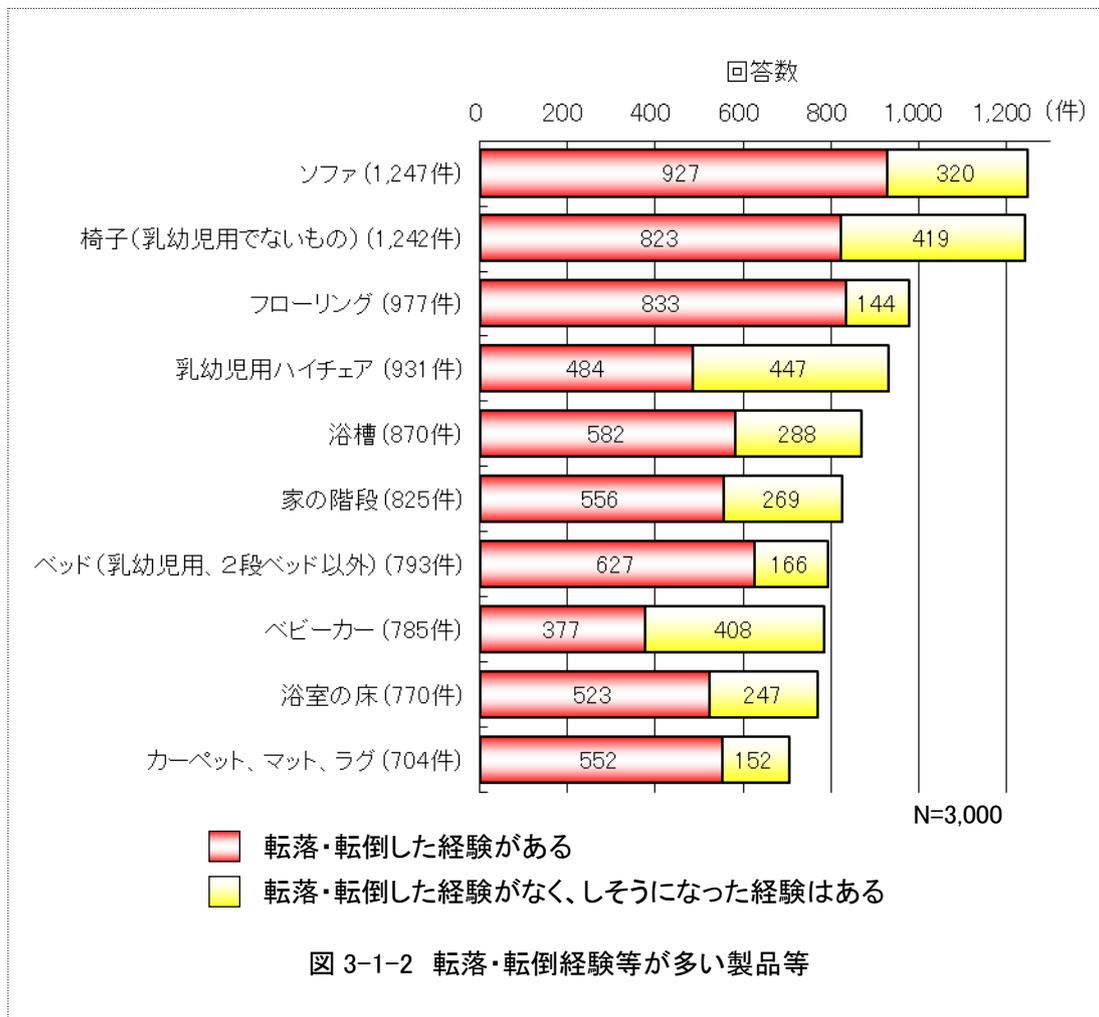


#### ※本報告書における注意事項

- ・グラフ上の「N=○」(○は数字)は、回答者の数を示す。
- ・回答比率(%)は、少数第 1 位を四捨五入して表示しているため、合計が 100%にならないことがある。

## イ 製品等別 転落・転倒経験の有無

「図 3-1-2」に、転落・転倒「した」「しそうになった」経験が多い 10 製品等を示す。



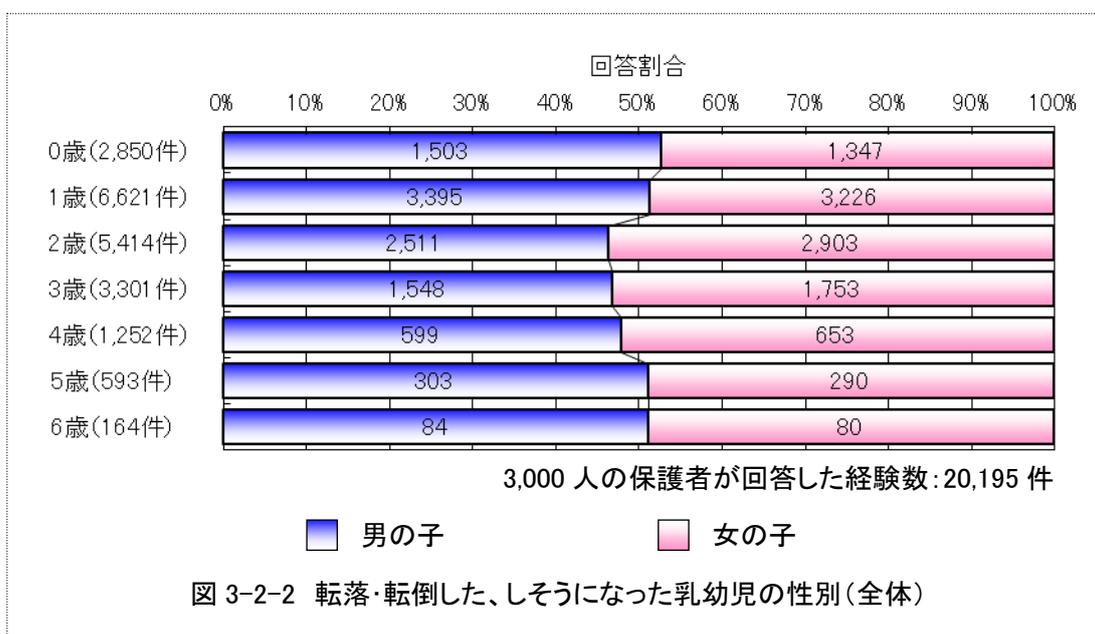
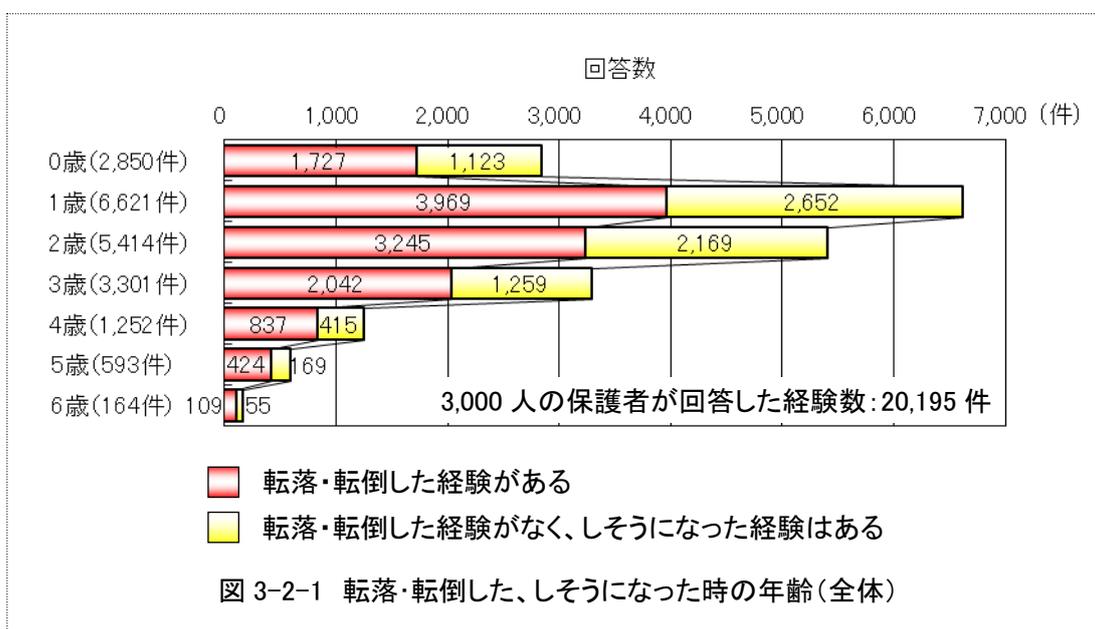
## (2) 転落・転倒時の年齢・性別

### ア 全体の傾向

転落・転倒した、しそようになった時の年齢を「図 3-2-1」、性別を「図 3-2-2」に示す。  
 なお複数の転落・転倒した経験がある場合は「最も大ケガした」とき、転落・転倒しそようになった経験のみがある場合「最も危ないと感じた」ときの事例について、その時の乳幼児の年齢・性別を質問した。

年齢別では「1歳」が6,621件で最も多い。図 3-2-1 では1歳以降、年齢が上がる毎に件数が減る傾向である。但し、本調査では保護者の子供が低年齢児のみの場合、高年齢児の回答が不可能なことを、図においては考慮しなければならない。

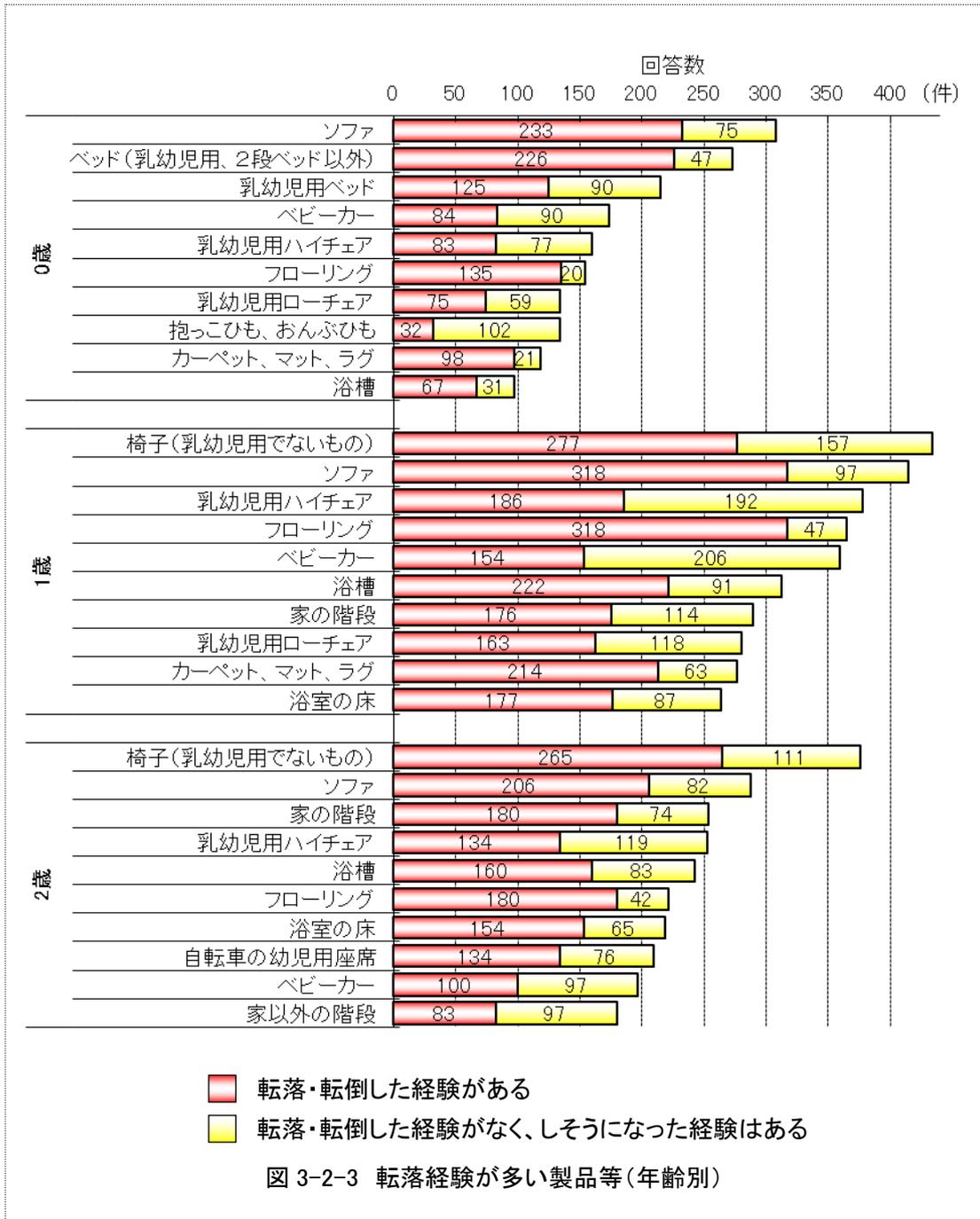
性別においては「男の子」「女の子」の事例は、ほぼ半数である。

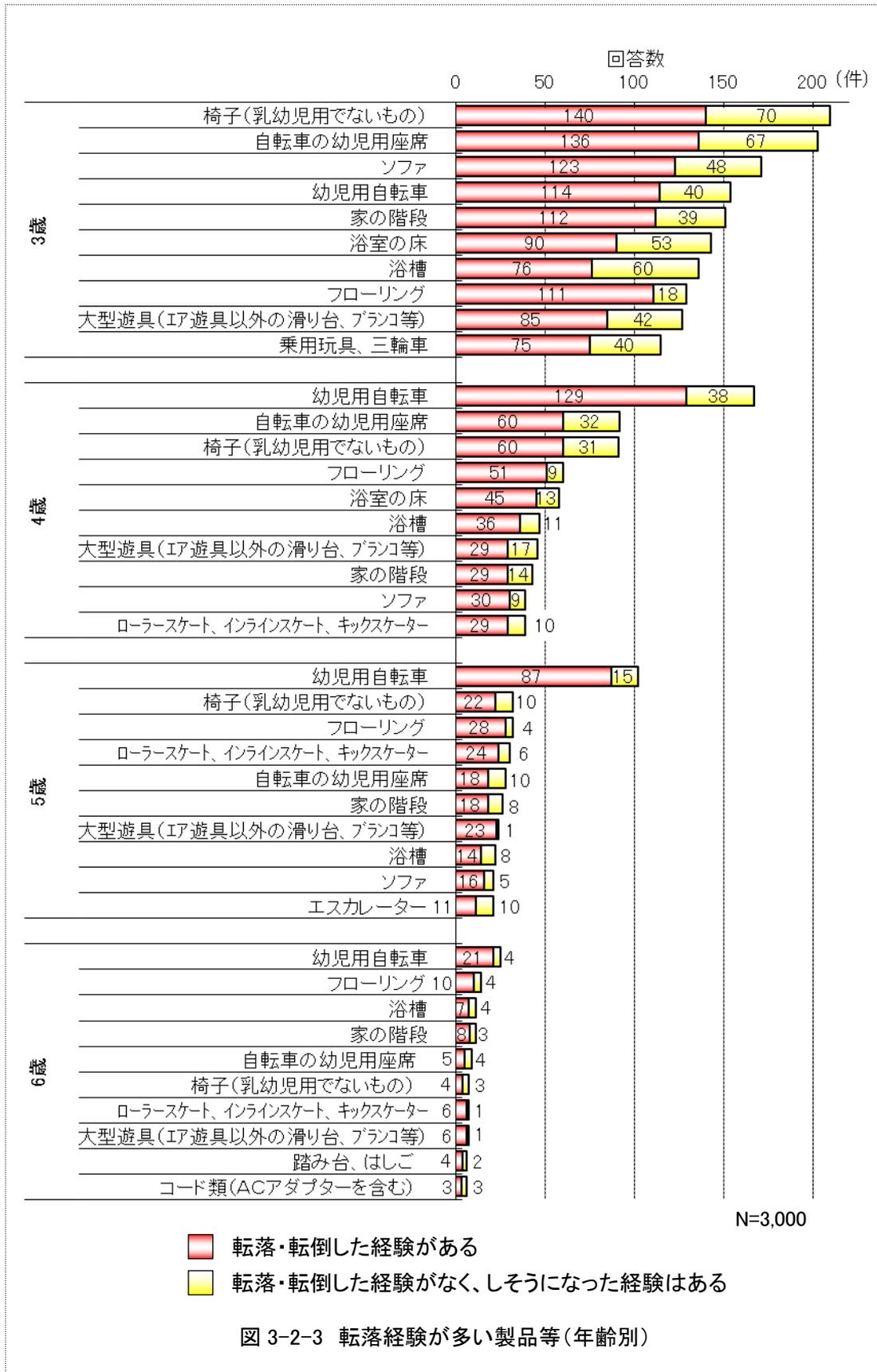


## イ 年齢別 転落・転倒が多い製品等

「図 3-2-3」に、転落・転倒時の年齢別に転落・転倒「した」「しそうになった」回答数が多い製品等を示す。

1～2 歳では椅子類（ソファを含む）が上位を占める。3 歳以上では幼児用自転車が上位を占める。また、3,4 歳では自転車の幼児用座席が目立つ。





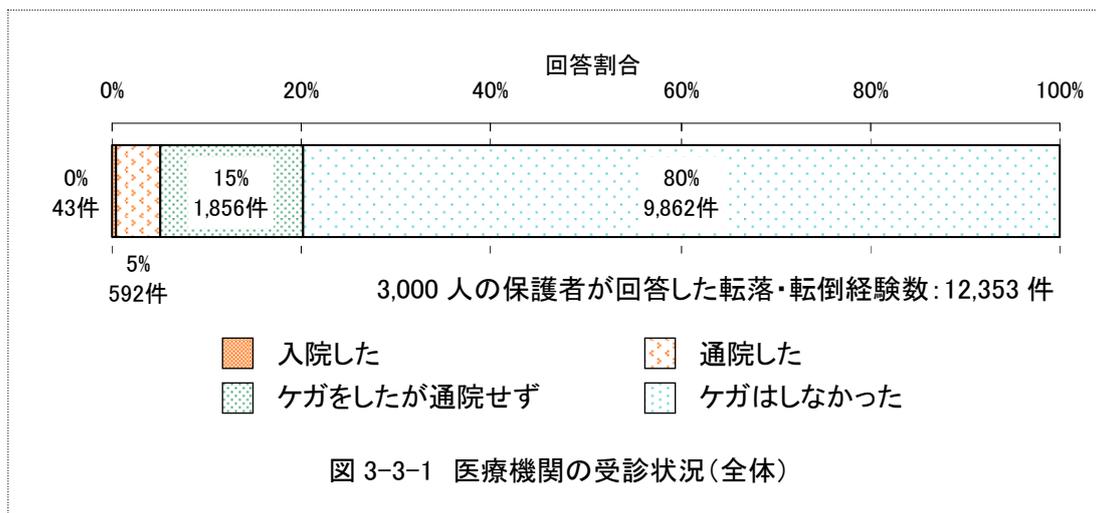
### (3) 医療機関の受診状況

#### ア 全体の傾向

「図 3-3-1」は、転落・転倒による受診状況の集計結果である。

本設問では、複数回の転落・転倒経験がある場合は、危害が最も大きかった際の受診状況を回答してもらった。

調査の結果、医療機関の受診に至るものは5%である。



## イ 転落・転倒により医療機関の受診が多い製品等

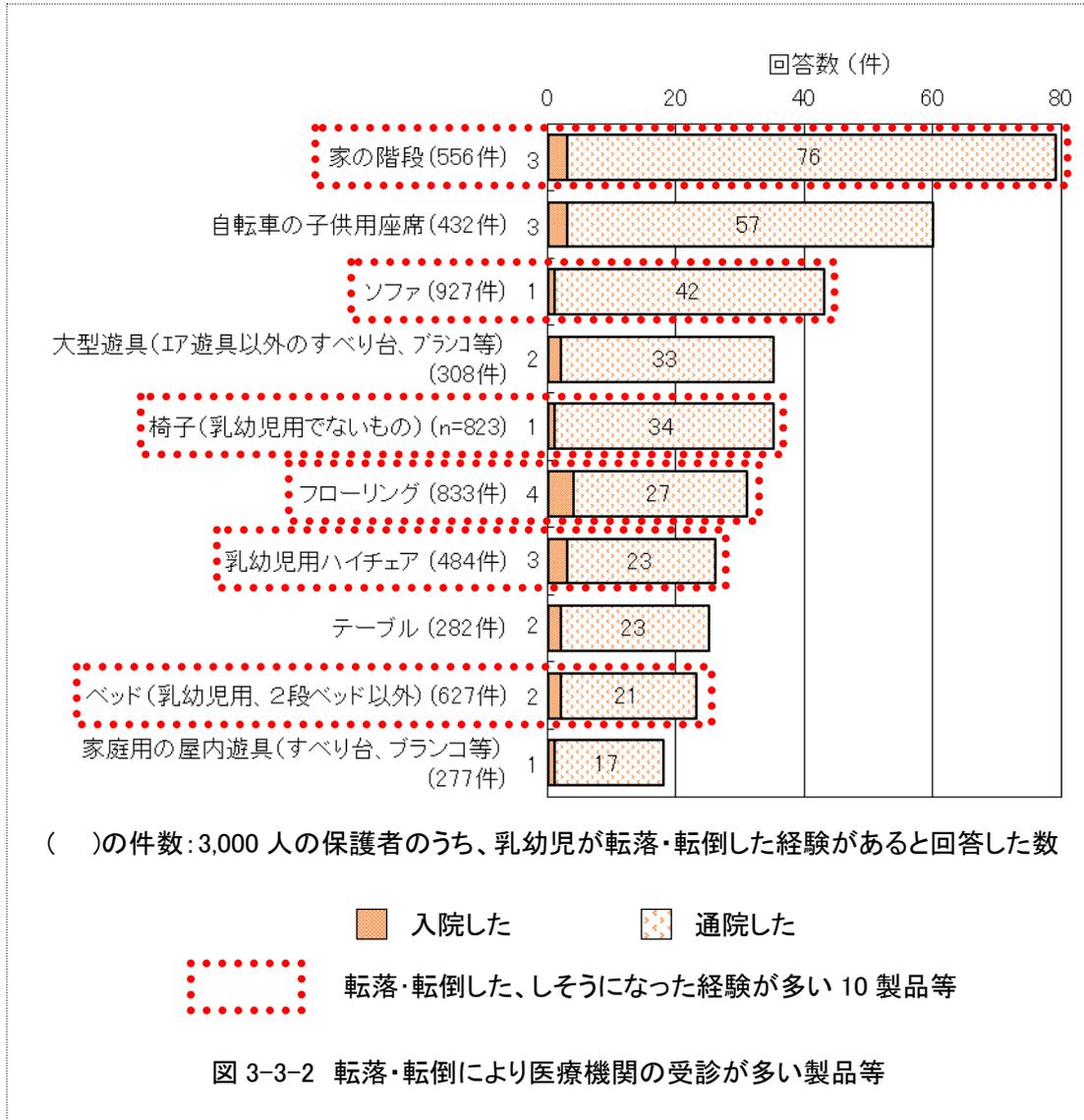
「図 3-3-2」に、転落・転倒によって医療機関の受診<sup>※1</sup>が多い 10 製品等を示す。

家の階段は転落・転倒をした、しそうな経験数は 6 位 (P.5 参照) と高く、加えて受診率は 14%<sup>※2</sup> と高い。

※1 医療機関の受診：「入院した」及び「通院した」

※2 家の階段での転落・転倒による受診率：

$$\frac{\text{入院した 3 件} + \text{通院した 76 件}}{\text{家の階段で転落・転倒した経験があると回答した数 556 件}}$$



## ウ 年齢別 転落・転倒により医療機関の受診が多い製品等

「表 3-3-1」は、各年齢で医療機関の受診が多い製品等である。  
家の階段は0歳児を除く全年齢で、高い順位に挙げられている。

表 3-3-1 医療機関を受診する割合が高い製品等（年齢別）

0歳			1歳		
順位	製品等名	件数	順位	製品等名	件数
1位	ソファ	12	1位	家の階段	28
2位	乳幼児用ベッド	9	2位	ソファ	11
3位	ベッド(乳幼児用、2段ベッド以外)	6	//	乳幼児用ハイチェア	11
4位	乳幼児用ハイチェア	4	//	自転車の子供用座席	11
//	椅子(乳幼児用でないもの)	4	5位	椅子(乳幼児用でないもの)	10
6位	フローリング	3	6位	テーブル	7
//	抱っこひも、おんぶひも	3	7位	ベッド(乳幼児用、2段ベッド以外)	6
//	窓	3	//	フローリング	6
//	自転車の子供用座席	3	//	窓	6
10位	ベビーカー他	2	10位	自動車	5

2歳			3歳		
順位	製品等名	件数	順位	製品等名	件数
1位	家の階段	22	1位	家の階段	20
2位	自転車の子供用座席	21	2位	自転車の子供用座席	14
3位	椅子(乳幼児用でないもの)	16	3位	ソファ	8
4位	フローリング	10	//	大型遊具(エア遊具以外の滑り台、ブランコ等)	8
//	テーブル	10	5位	幼児用自転車	7
6位	大型遊具(エア遊具以外の滑り台、ブランコ等)	9	6位	フローリング	5
7位	ソファ	8	7位	椅子(乳幼児用でないもの)	4
8位	家庭用の屋内遊具(滑り台、ブランコ等)	8	//	乳幼児用ハイチェア	4
//	乳幼児用ハイチェア	7	//	家以外の階段	4
10位	ベッド(乳幼児用、2段ベッド以外)	6	10位	踏み台、はしご他	3

4歳			5歳		
順位	製品等名	件数	順位	製品等名	件数
1位	自転車の子供用座席	9	1位	大型遊具(エア遊具以外の滑り台、ブランコ等)	7
2位	大型遊具(エア遊具以外の滑り台、ブランコ等)	7	2位	フローリング	4
3位	家の階段	4	3位	家の階段	3
4位	フローリング	3	4位	幼児用自転車	2
//	ソファ	3	//	ローラースケート、インラインスケート、キックスケーター	2
//	ベッド(乳幼児用、2段ベッド以外)	3	//	自転車の子供用座席	2
//	テーブル	3	7位	椅子(乳幼児用でないもの)他	1
//	家庭用の屋内遊具(滑り台、ブランコ等)	3			
9位	幼児用自転車	2			
//	浴槽	2			

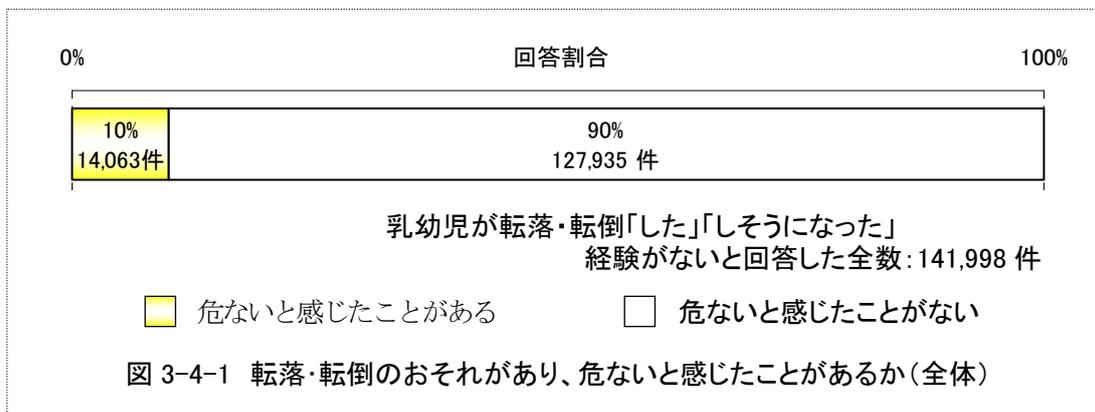
6歳は **幼児用自転車** **家の階段** 自動車において、各1件のみ。

※  : 「図 3-2-3 転落経験が多い製品等（年齢別）」の当該年齢で挙げられた製品等。  
ただし、0歳の10位及び5歳の7位は、当該製品が複数であるため同枠は省略した。

#### (4) 転落・転倒を経験していない保護者が、危ないと感じた製品等

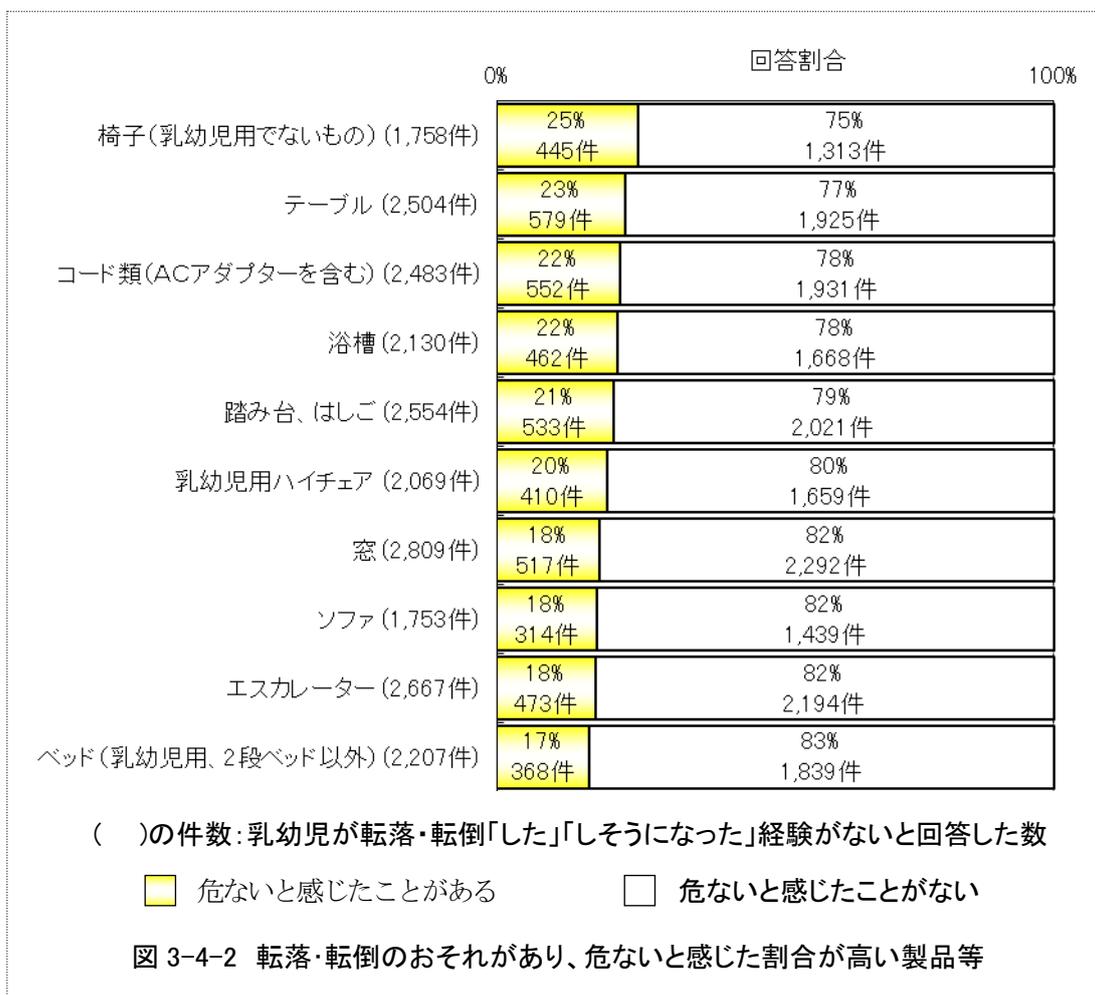
##### ア 全体の傾向

各製品等で乳幼児が転落・転倒「した」「しそうになった」経験がない保護者に対し、乳幼児の自分の子供が転落・転倒するおそれがあり、危ないと感じたことがあるか質問した。「図 3-4-1」に全体の傾向を示す。



##### イ 保護者が危ないと感じた割合が高い製品等

「図 3-4-2」に危ないと感じる割合が高い 10 製品等を示す。



## (5) 場所別 転落・転倒の事例

平成 21 年度ヒヤリ・ハット体験調査「乳児の身の回りの危険」の結果と、転落・転倒が多いと推察される製品等について、事例調査を行った。

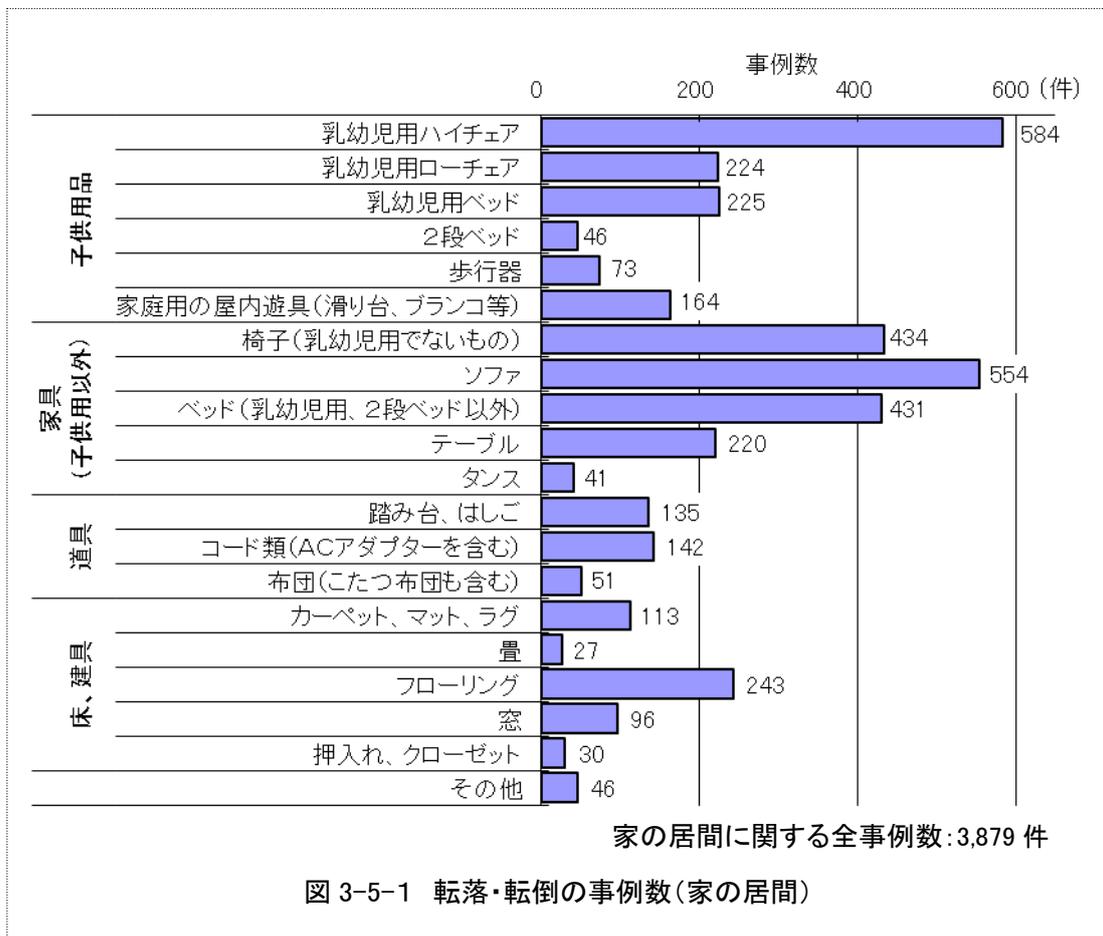
事例調査の対象者は、「家の居室」「家の居室以外」「家の外」の各場所において「転落・転倒した、しそうになった」「危ないと感じたことがある」と回答した人である。

次に、場所別・製品等分類別に事例等を紹介する。

### ア 家の居室

家の居室では、回答者 1 人に対し最大 3 件の事例を求めた。

本事例調査で回答された製品等名の件数を「図 3-5-1」に示す。



次に製品等ごとの事例を示す。

ア) 乳幼児用ハイチェア

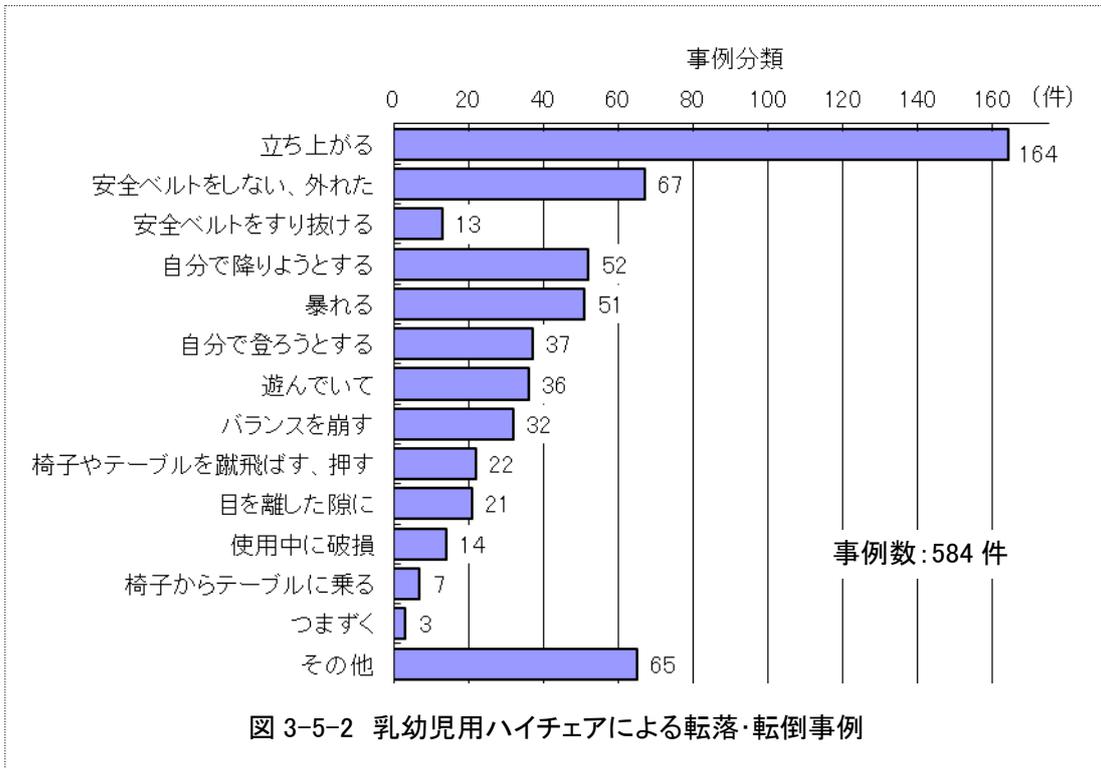
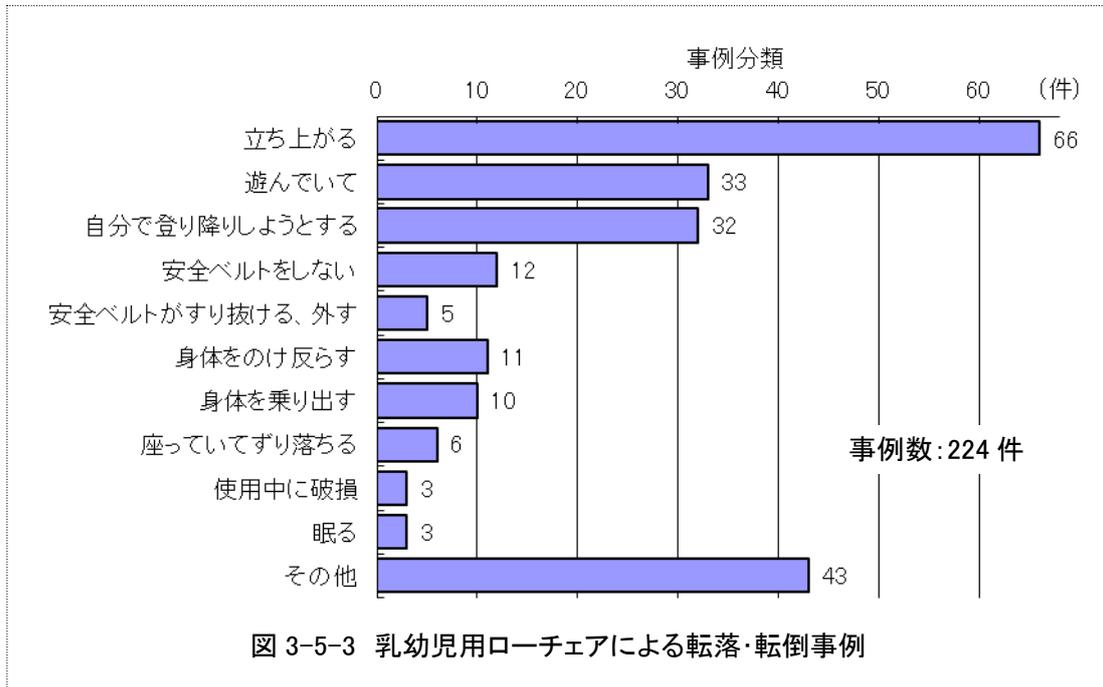


図 3-5-2 乳幼児用ハイチェアによる転落・転倒事例

「立ち上がる」が164件で最も多い。  
安全ベルトに関する事例は80件(=67件+13件)あり、このうち「安全ベルトをしな  
い、外れた」は67件である。

主な事例等		保護者が考える原因
立ち上り 背もたれ によりか かる	息子が1歳~2歳にかけて、椅子から立ち上がって背もたれによりかかり、そのまま後ろに落ちこみました。頂きものでメーカー等がわかりませんが、小さなテーブル付です。子供が小柄なのもあるかもしれませんが、股ベルトがあっても容易に立ち上げられる構造なので危ないです。	☆製品構造に問題
ベルトを していな い	テーブル付きのハイチェアを持っているが、テーブルを外してダイニングテーブルで使用するとベルトが使用できなくなり、食事中に立ったり動いたりして落ちたことがある。幸いケガはしなかったが、購入時にそこまで気がつかなかった。	☆不注意
自分で降 りる	息子の腰が座った頃(8か月)から、ハイチェアを使用しているが、安全ベルトがない構造、しかも座る場所がかなり広いので、息子が椅子の中で暴れてしまう。まだ小さい頃は力がなかったため、危険なことが少なかったが、2歳になった頃は自分で降りようとして、落ちこそうになったことが2回あった。2回とも息子を大人がキャッチしたのでケガはなかったが、本人は大泣き。大人も相当ヒヤッとした。	☆製品構造に問題 ☆不注意
遊び 整備不良	子供が座った状態で前後にゆらゆら動いて遊んでいた。よく見たらねじが外れそうになっていた。 《その後の防止対策》 ねじを締めて、それ以降は時々緩んでいないかチェックしている。	☆製品の経年劣化 ☆不注意

4) 乳幼児用ローチェア



「立ち上がる」は 66 件で最も多い。「遊んでいて」は 33 件、「自分で登り降りしようとする」は 32 件である。

安全ベルトに関しては 17 件 (=12 件+5 件) であり、このうち「安全ベルトをしない」は 12 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
立って遊ぶ	椅子に立って遊んでいたら、そのまま転倒して後頭部をぶつけて出血をした。 《その後の防止対策》 椅子の上に立つことを注意した。	☆不注意
付属テーブルに体重を掛けて立ち上がる	テーブル付きローチェア。1歳の息子が、食事中に立ち上がるようになり、椅子に付属されているテーブルに手をつき、体重をかけたところ、前方に倒れ、子供が椅子から投げだされるような形になった。その後、テーブル部分の下に段ボール箱を差し込む等、体重を掛けても倒れないようにして使用した。「座っている子供が立ち上がりテーブル部分に体重を掛ける」、又は「座っていない兄弟や他の子供がテーブル部分に体重を掛ける」等は容易に想像できると思うので、体重を掛けても倒れないように設計に配慮が欲しかった。	☆製品構造に問題
椅子が破損	ローチェアというよりは、一般的には豆椅子として売られているもので起こった事例。買ってまもなく、子供が腰かけたら座る部分が抜けました。座る部分の溶接が甘かったようです。幸い、ケガはしませんでした。溶接部分は金属が鋭くなっていたので、もし指で触っていたら、と考えると大変危険なものでした。 《その後の防止対策》 すぐに購入したお店へ返品交換してもらいました。	☆製品構造に問題
椅子のデザインの問題	1歳の時、椅子の足が斜めに出っ張っているの、歩いて引っ掛かりころんでしまった。 《その後の防止対策》 できる限り、使い終わったら壁際等に置き、引っ掛からないようにした。	☆製品構造に問題

ウ) 乳幼児用ベッド

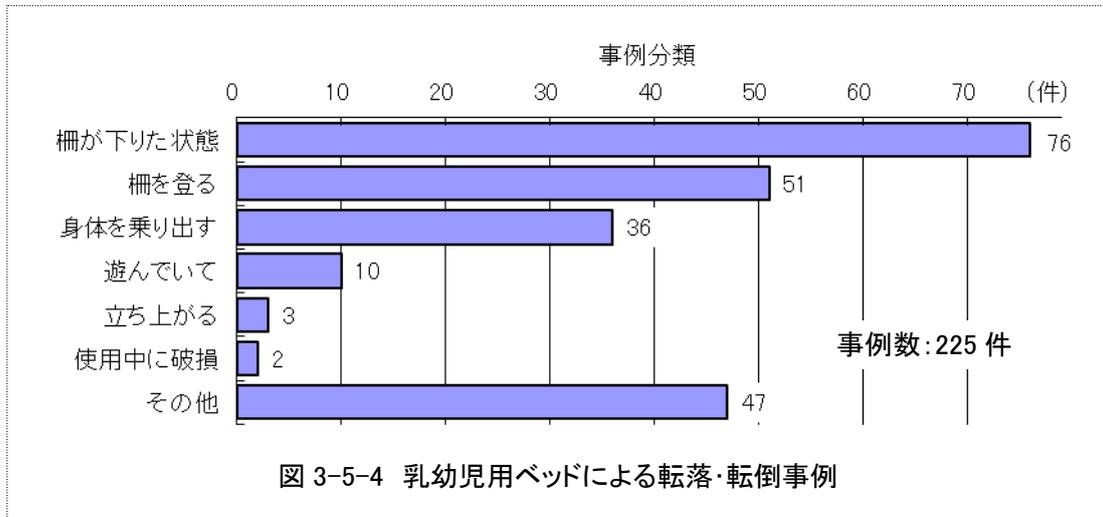


図 3-5-4 乳幼児用ベッドによる転落・転倒事例

「柵が下りた状態」は 76 件で最多である。

「柵を登る」は 51 件、「身体を乗り出す」は 36 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
寝返り	乳幼児用ベッドに寝かせ少し目を離した際に、寝返りを打って下に転落した。	☆誤使用 ☆不注意
柵を乗り越える	柵がついていたが、柵を乗り越えて転落した。幸い落ちた先が柔らかいところだったので、ケガはしなかった。柵があり、2歳まで使えるとあったので、安心してベッドに置いていたのがいけなかった。 《その後の防止対策》 ベッドに一人で残さないようにした。	☆不注意
ベッドの外の物に手を伸ばす	息子が0歳の時に使用していた小さな簡易ベビーベッド。キッチンで作業をしている時にベッドに子供を入れておいたら、つかまり立ちをして、ベッドの外の物に子供が手を伸ばし、つかんで引っ張ったのでベッドごと転倒しそうになって怖かった。その時は幸い転倒しなかったので大事には至らなかった。 《その後の防止対策》 手を伸ばしても周りの物に手が届かない場所にベッドを置き、常に気を付けて見ているようにした。	☆製品構造に問題 ☆不注意
飛び跳ねて遊ぶ	1歳の時、幼児用ベッドの柵をして2歳年上の兄弟と一緒にベッドにいられた。2人で柵を手でジャンプをしていたら、上げ下げができる柵の固定がしっかりされておらず、ジャンプの勢いで柵が下にさがり、2人で落ちた。1回転しながら落ちた感じで、丁度床に足で着地したためケガはなかった。 《その後の防止対策》 しっかり固定しているか、閉めた後に確認するようにした。	☆不注意

エ) 2段ベッド

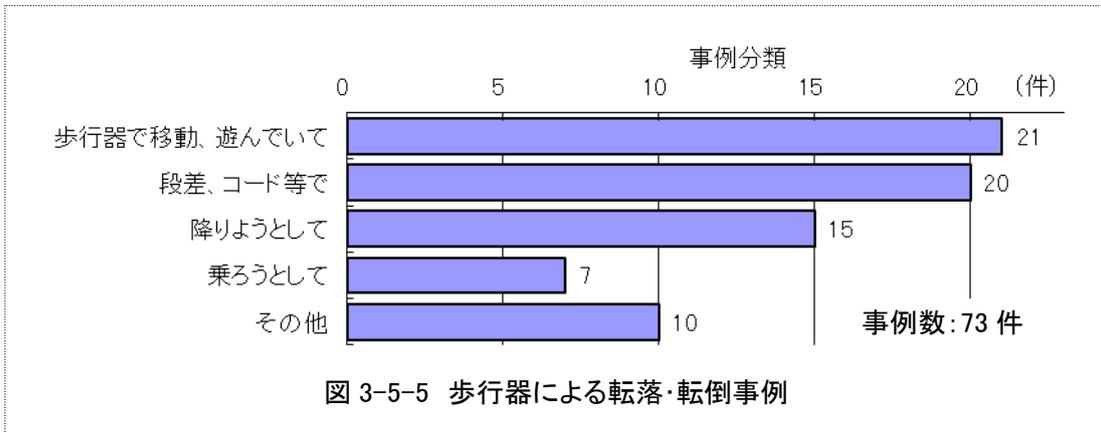
遊んでいて転落する事例が多い。

窓際に2段ベッドがあると、乳幼児の思わぬ行動で危険が生じるおそれがあるという事例がある。

2段ベッドの階段や手すりの状態に注意が必要な事例もある。

主な事例等		保護者が考える原因
遊び よじ登り	7歳の兄と遊んでいて、2段ベッドのはしごではなく、サイドからよじ登り転落した。咄嗟にすぐ横にあったカーテンにつかまったため、カーテンレールごと落下しケガをした。(かすり傷)床にぶつけたのかベッドかカーテンレールかは不明。登り降りをするはしごが窓に近いと、もしものときに危ないと感じていたので部屋の中央にはしごを設置したが、サイドから登るとは思わなかった。 《その後の防止対策》 窓側のサイドには登れないよう壁につけ、枕の位置も変えた。	☆不注意
ベッドの 外の物に 手を伸ばす	ベッドの階段を子供が触って少しずれた状態で登って遊んでいたところ、バランスを崩して転倒。右腕を骨折しました。 《その後の防止対策》 階段を外さない。	☆誤使用
はしごを 踏み外す	姉のベッドに登り、降りようとしたらはしごを踏み外した。 《その後の防止対策》 見張るようにした。	☆不注意
ねじの緩み	ベッドに入る際に柵に力がかかるので、ねじが緩んでいることがあり、いつか柵が取れて落ちるかもしれないと思っている。 《その後の防止対策》 ねじを締めた。	☆製品構造に問題

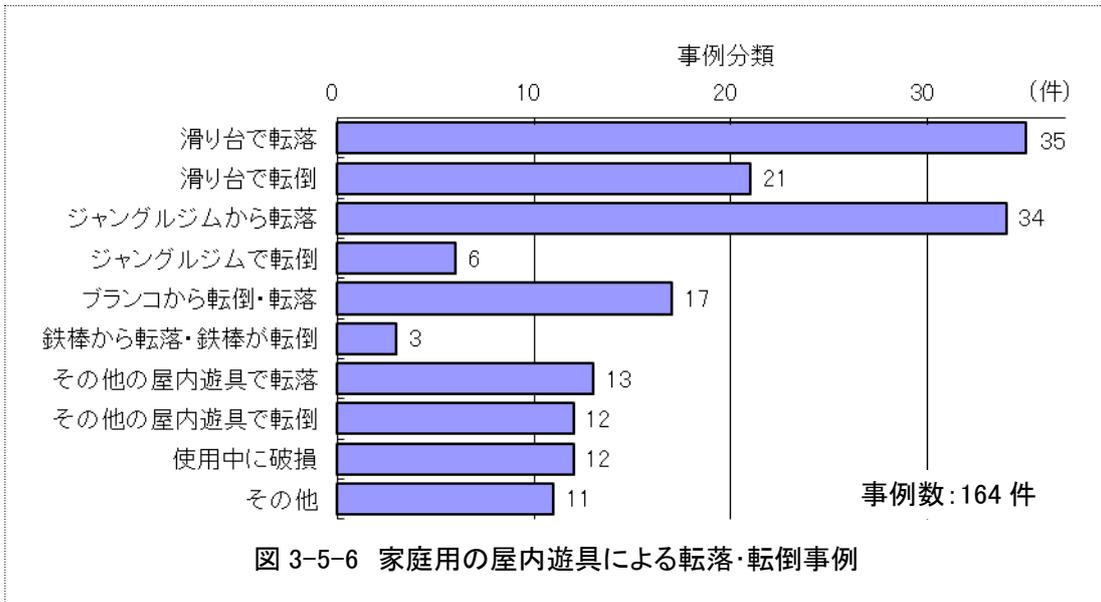
カ) 歩行器



「歩行器で移動、遊んでいて」は21件、「段差、コード等で」は20件である。  
歩行器の乗り降りに関する事例は22件(=15件+7件)である。

主な事例等		保護者が考える原因
配線コードに引っ掛ける	息子が2歳の時に実家のダイニング(フローリング)で歩行器を使って移動しているとき、配線コードに引っ掛けて転倒した。 《その後の防止対策》 足下に配線コードがこないように片付けた。	☆不注意
速く動く	勢いよく駆けて行って、開いていたベランダにつながる窓から出てしまい転んだ。 《その後の防止対策》 窓に防犯用のストッパーをつけた。	☆不注意
段差	腰がすわった7か月過ぎに、歩行器に乗って後追いをしして玄関まで来て、玄関の段差から落ちて顔をケガした。 《その後の防止対策》 玄関まで来ないようにドアを閉めた。	☆不注意
抜け出す	1歳半頃から、歩行器を抜けようとした中途半端な状態を楽しむように(歩行器の縁に座る)。その状態で安定していることがほとんどだったが、バランスを崩して落ちてきました。 《その後の防止対策》 落ちてからは歩行器は卒業させました。	☆誤使用

か) 家庭用の屋内遊具(滑り台、ブランコ等)



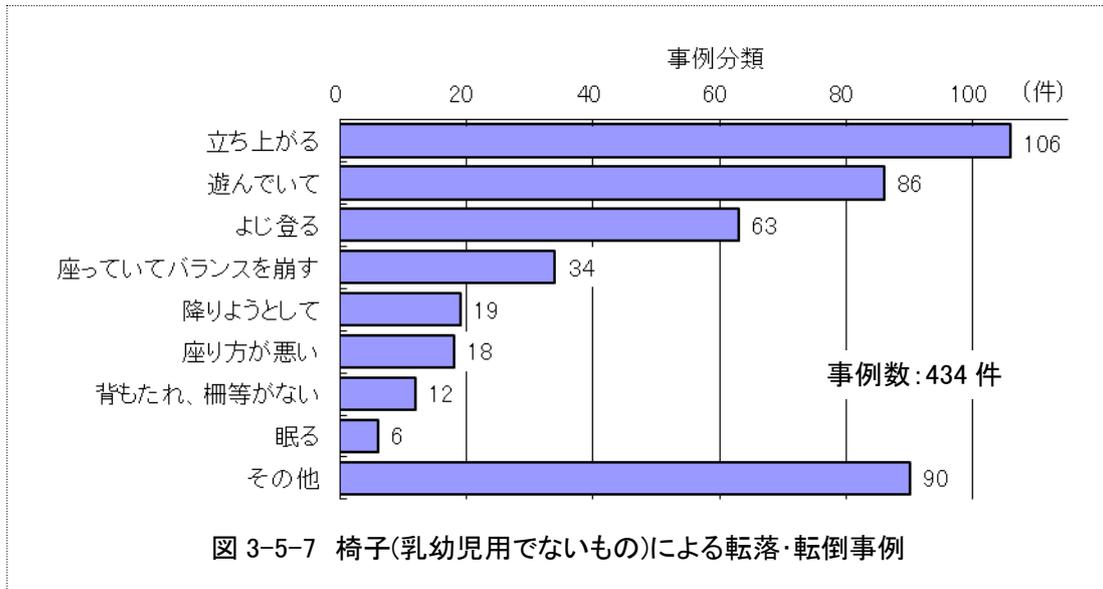
滑り台に関する事例は 56 件 (=35 件+21 件) で最も多い。

次に多いものはジャングルジムに関する事例で 40 件 (=34 件+6 件) である。

「使用中に破損」は 12 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
製品劣化	ジャングルジムに登り慣れ、激しく動くようになった。その際にジャングルジムが傾きかけたり、接合部が抜けかけたりしていた。 《その後の防止対策》 使う前に入念にチェックする。	☆製品の経年劣化 ☆使用年齢や耐用年数等具体的に書いていない。
滑りすぎ	滑り台から勢いよく滑り、止まれなくて柱に頭をぶつけて 3 針縫うケガをしました。 《その後の防止対策》 もう少し広い部屋に移しました。	☆誤使用 ☆不注意
遊具の上に立つ	ブランコと滑り台が付いている遊具で、滑り台の階段や登ったところに手すりがなく、また足元が危ない子供が立ち上がっているのを見てヒヤリとした。 《その後の防止対策》 その遊具のそばに子供がいるときは、子供に張り付くようにした。	☆製品構造に問題 ☆注意書きで何歳以上と書かれてあっても、訪ねた家等であれば、年上の子達と一緒に遊んでしまう。
荷重が偏る	娘(3 歳)が鉄棒で遊んでいたら、息子(5 歳)が鉄棒の真横からよじ登り、重みで傾いて 2 人とも転倒しそうになった。窓際に置いてあり窓が開いていたので、転倒していたら網戸を突き破って外に放り出されるところだった。 《その後の防止対策》 鉄棒の置き場所を変えた。誤った危険な使い方をしないよう子供によく言い聞かせた。	☆誤使用 ☆不注意

キ) 椅子(乳幼児用でないもの)

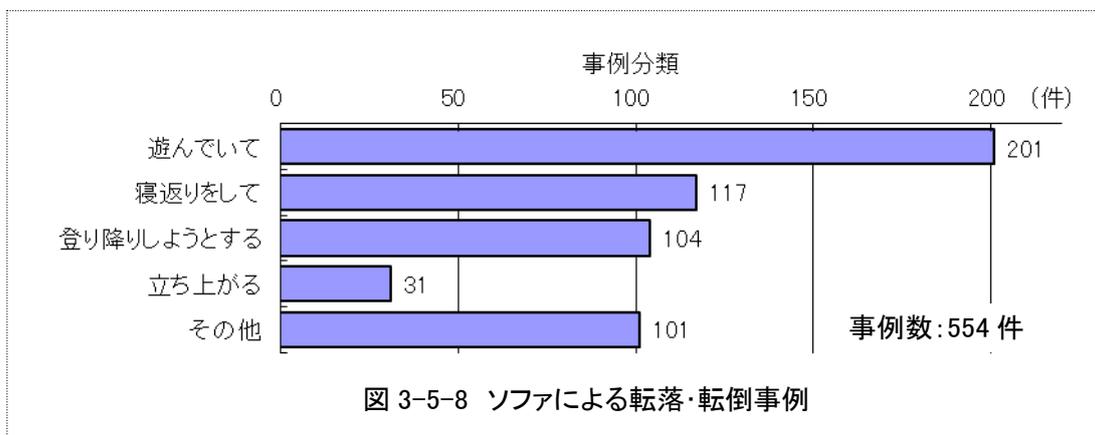


「立ち上がる」は106件で最多である。

次いで「遊んでいて」は86件、「よじ登る」は63件である。

主な事例等		保護者が考える原因
座面に立つ	上の兄弟2人が椅子に座って、パソコンラックでYou Tubeを見ていたとき、2歳の男の子も一緒に見たくて椅子の座面に立っていた。それでバランスを崩して腕から落下し骨折した。	☆不注意
折りたたみ椅子の座面に立つ	折りたたみ式の椅子を購入したら、それをとても気に入って使っていた。体重の掛け方によって折りたたまれてしまう構造だったので、とても正しく使えないと感じて、大人と一緒に使わないと使ってはダメと言いつけてきた。ある日、流しを使おうとしてその椅子に立ち上がり、案の定、椅子が折りたたまれてしまい転びそうになった。幸い流し台にぶら下がって無事。 《その後の防止対策》 折りたたみ椅子は、それ以来使っていない。	☆誤使用 ☆不注意
遊びリコール	ダイニングテーブルセットの回転する椅子が楽しく、ぐるぐる回っていたら椅子がぐらっと傾いた。 《その後の防止対策》 欠陥商品でリコールになった。購入した家具店は倒産してなくなっていたので自分で木工ボンドをつけ釘を打ちなおした。	☆製品構造に問題
椅子の上に固定していないローチェアを設置	ハイチェアを買っていなかったため、椅子の上に子供用ローチェアを置いて、その上に座らせていた。固定していなかったため目を離していたら椅子の上のローチェアの上で飛び跳ねていて、ローチェアがだんだんずれていった様で、そこから落下した。 《その後の防止対策》 ハイチェアを買った。	☆不注意

ク) ソファ



「遊んでいて」が201件で最多である。

「寝返りをして」は117件、「登り降りしようとする」は104件である。

主な事例等		保護者が考える原因
遊び	娘が5歳の時、ソファに後ろ向きに座って遊んでいた。振り返ったときにバランスを崩し、前のリビングテーブルで口を打った。上と下の歯で下唇を挟み、下唇の下を6針、口の中を2針縫った。	☆不注意
遊び 製品破損	友人の子供(男の子・2歳)を自宅で預かったとき、娘(5歳)と一緒にソファの背もたれの部分に乗っては降りるという遊びをしていたとき、パキッという音とともに突然ソファの背もたれが後ろに倒れてケガをしそうになった。 《その後の防止対策》 ソファの背もたれの後ろには何も置いてなかったが、倒れないように段ボール等の重い物を置いて固定した。	☆不注意
寝返りしない時期	生後4か月の時、寝返りはできないけど、足を伸ばしたり縮めたりしてずれて落ちました。 《その後の防止対策》 ソファに寝かせない。	☆不注意
背もたれから身を乗り出す	娘が3歳の時に、危険防止のため掃出しサッシ前に設置したソファの背もたれから身を乗り出し、反対側に落下。観葉植物のサボテンにおでこが当たり、とげが刺さって病院に連れて行った。	☆不注意

ケ) ベッド(乳幼児用、2段ベッド以外)

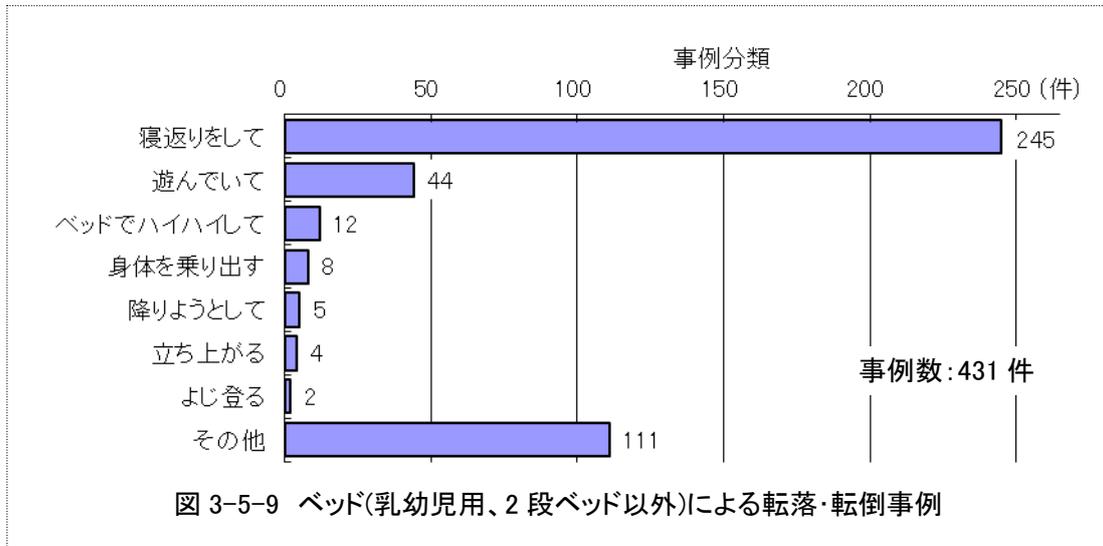
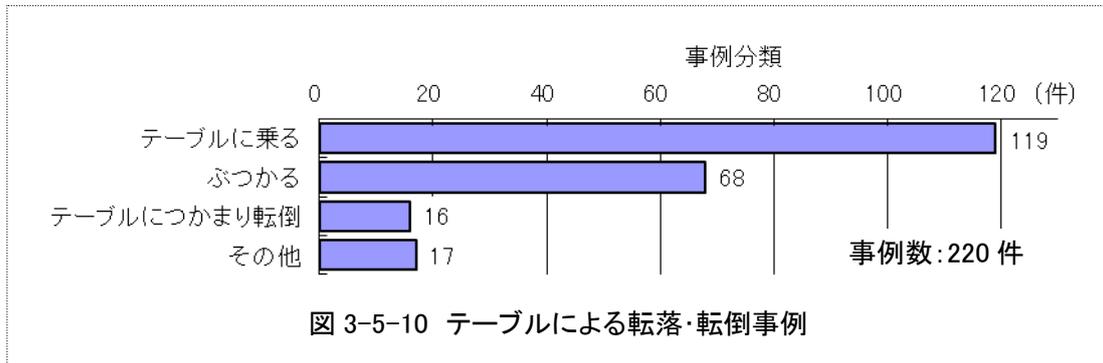


図 3-5-9 ベッド(乳幼児用、2段ベッド以外)による転落・転倒事例

「寝返りをして」は245件で最多である。「遊んでいて」は44件である。

主な事例等		保護者が考える原因
寝返り	<p>子供が2歳までのこと、母親の隣で寝たがり、ベビーベッドから大人のベッドに連れてきて寝かせていたら、夜に突然大きな音がしてベッドの足元から落ちて泣いていた。父親と母親の間に挟んでいたため、落ちないだろうと安心していましたが、子供は寝ている間に動き回って足元から落ちた。幸い大きなケガにはならなかったが、ベッドに挟み込めるネット状の柵を買ってこういう事故を防ぐことにした。</p> <p>《その後の防止対策》 ネット状の柵を買った。</p>	☆不注意
ベッド柵の危険	<p>上の子が2歳くらいの時と、下の子が同じく2歳くらいの時、ベッドの脇に設置するベビー用の落下防止の器具を取り付けていましたが、ベッドとその器具の間に挟まって、身動きがとれなくなったことが何度もあり危なかったです。</p> <p>《その後の防止対策》 ベッドと器具の間に隙間ができないようにクッションを置いたり、ブランケットを置いた。</p>	☆製品構造に問題
遊び	<p>娘が4歳の時、娘のベッド(鉄製のフレーム)で遊んでいたとき、股を強く打って出血をしたので病院で縫ってもらった。</p>	☆誤使用 ☆不注意
歯ブラシをくわえ たまま遊ぶ	<p>ベッドでお兄ちゃんとふざけていたときに歯ブラシをくわえていて、ベッドで転んで縦隔気腫になり入院した。</p> <p>《その後の防止対策》 ベッドでふざけさせない。歯ブラシを持たせないようにした。</p>	☆不注意

コ) テーブル



「テーブルに乗る」は119件で最多である。

「ぶつかる」は68件、「テーブルにつかまり転倒」は16件である。

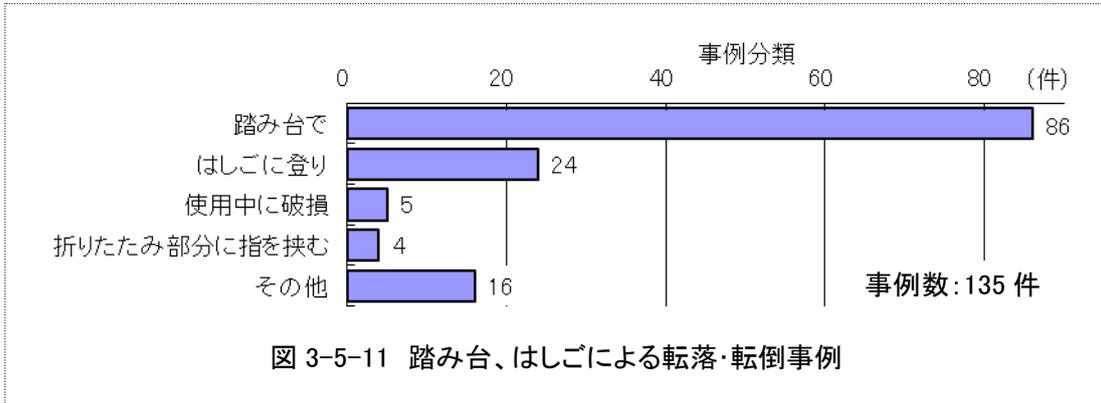
主な事例等		保護者が考える原因
よじ登る	娘が2歳の時に、70 cmのダイニングテーブルに上がり落ちた。鎖骨を骨折し3か月ほど通院した。 《その後の防止対策》 乗らないように注意している。	☆不注意
踊る	娘(1歳)が幼児向け音楽番組を見ながらちゃぶ台に登って踊っていた。足を踏み外して転落、頬を床に強く打ち付けて青痣になっていた。	☆不注意
テーブルの角で裂傷	息子が2歳の時、リビングのローテーブルの手前でバランスを崩し、テーブルの角に顔をぶつけて裂傷。角の丸いテーブルでないと、子供のいる家庭では使用してはいけないことを痛感。 《その後の防止対策》 リビングテーブルの買い換え。ほかの家具の角に保護材をつけた。	☆製品構造に問題
テーブルで着替え	息子が0歳の時、沐浴後にテーブルの上にタオルを敷き着替えさせていた。少し目を離した時に転落してしまった。 《その後の防止対策》 沐浴後、テーブルの上での着替えをやめた。	☆不注意

サ) タンス

転倒してタンスにぶつかる事例が多く、この中にはタンスが倒れる事例もある。  
引き出しを使いタンスによじ登る事例も見られた。

主な事例等		保護者が考える原因
転倒して角にぶつかる	<p>子供が2歳弱の時に、子供用の低いタンスを本棚につかっでその角にぶつめた。ほほを鋭利に切り、血も出たが口の中だから大丈夫だろうと思っていたら、次の日おたふくのように腫れた。病院に行ったところ、内側まで貫通しており救急で来ててもよい傷と言われてしまった。</p> <p>《その後の防止対策》 破棄しました。</p>	☆不注意
遊び	<p>観音開きの戸を開閉して遊ぶことが好きだった頃、遊んでいて転倒し、戸にぶつけてしまった。</p> <p>《その後の防止対策》 戸の取っ手を外し、開かないようにした。</p>	☆不注意
タンスも倒れる	<p>プラスチックの簡易たんすに娘がぶつかり、転んだ拍子に足がタンスを蹴り、たんすが倒れた。</p> <p>《その後の防止対策》 倒れやすいのでタンスを変えた。</p>	☆不注意
引き出しを使いよじ登る	<p>タンスの引き出しを開けては乗ろうとした。放っておくと転倒してしまふところだった。</p> <p>《その後の防止対策》 もともと引出しにロックをつけていたが、留め忘れることが多かったので気を付けるようにした。</p>	☆不注意

シ) 踏み台、はしご



「踏み台で」が86件で最多である。「はしごに登り」は24件である。  
 「使用中に破損」は5件である。

主な事例等		保護者が考える原因
飛び跳ねて踏み外す	台所で作っている料理を見たくて踏み台に乗って見ていたが、自分の好物のおやつを作っていると知って「わーい」と言ってジャンプをした。着地で踏み外し、目の前の台所の台で唇をぶつけて、歯で唇も切っていた。見るからに口の下に穴が開いており(歯でかんでしまい)貫通し、失神したので救急車を呼んだ。 《その後の防止対策》 幅が狭いので広いのに変えた。	☆不注意
固定ロックが外れる	娘が2歳の時に、踏み台を使用していたところ、少し重心をずらしただけで固定のためのロックが外れ、踏み台が崩れ落下。身体の数箇所に切り傷・擦り傷と腕の若木骨折で、3週間強の期間通院(ギプス着用)。 《その後の防止対策》 踏み台を別のメーカーのものに交換。	☆製品構造に問題
組立て不良の疑い	折りたたみ式の踏み台に乗ったら踏み台が壊れた。子供が自分でやるには難しいらしく、組立て方がちゃんとしていなかったようだったが、ケガはなかった。 《その後の防止対策》 折りたたむのをやめた。	☆製品構造に問題
滑り止めの不良	洗面台に向かって息子が踏み台に登って手を洗っているとき、踏み台から落下。たんこぶはできたが特に目立った外傷もなかったので様子を見ることにし、結局病院には行かずに済んだ。原因は踏み台の下の滑り止めゴムがすり減って降りようとしたときに、踏み台がずれて落ちたということが判明した。 《その後の防止対策》 新規に子供用の踏み台を購入。	☆製品の経年劣化

ス) コード類(ACアダプターを含む)

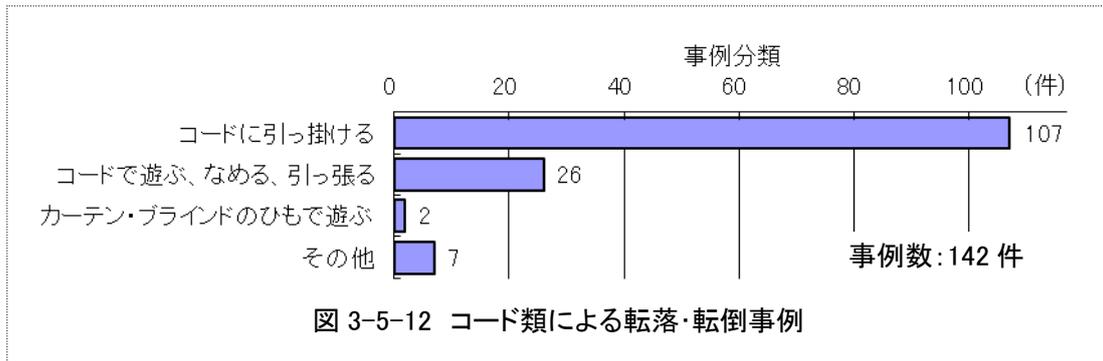


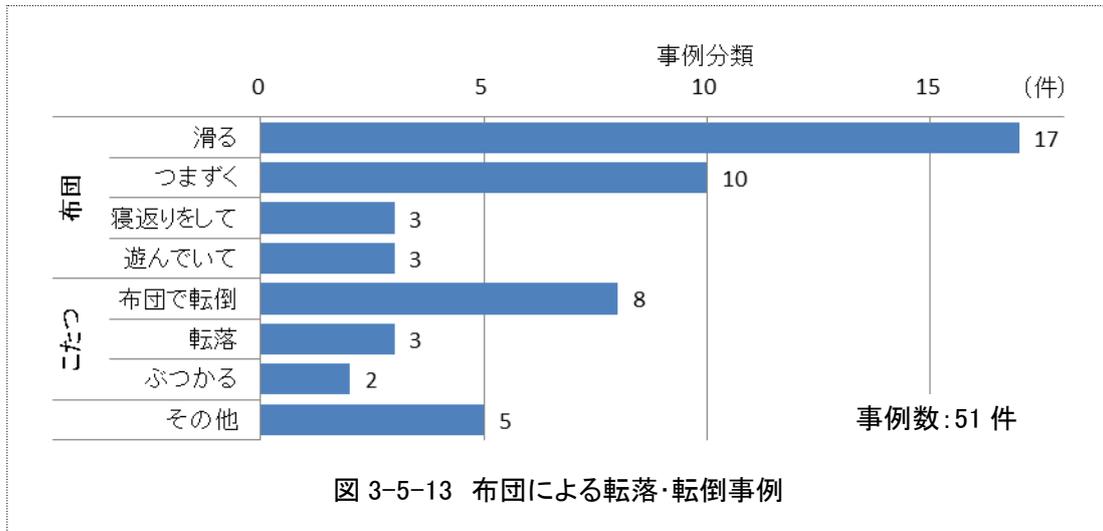
図 3-5-12 コード類による転落・転倒事例

「コードに引っ掛ける」は 107 件で最多である。

「コードで遊ぶ、なめる、引っ張る」は 26 件、「カーテン・ブラインドのひもで遊ぶ」は 2 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
走り回り 引っ掛ける	子供が走り回っているときに、携帯の充電のコードに足を引っ掛け、顔から床に叩きつけられた。口を切り出血した。歯が折れていなくてよかった。 《その後の防止対策》 コンセントをまるめた。	☆不注意
トースター使用中 に引っ掛ける	コードをつなげてトースターでパンを焼いているときに、コードに引っかかりこけた。トースターは落ちなかったが、落ちていたら大変とあせった。 《その後の防止対策》 近くに來させないようにした。	☆不注意
ガスホースに引っ掛ける	ガスファンヒーターのガスホースに足を引っ掛けたことが何回かあった。 《その後の防止対策》 ガスファンヒーターの置き場所を変えて、ホースはソファの後ろ側に置くようにした。	☆不注意
ロールカーテンのひもに引っ掛ける	ロールカーテン(スクリーン)の長いひもに首を引っ掛けていた。実際ケガ等はなかったが、ヒヤッとした。 《その後の防止対策》 垂らしておかず、上で結ぶようにした。	☆不注意

せ) 布団(こたつ布団も含む)



布団に関しては「滑る」が17件、「つまづく」が10件、「寝返りをして」「遊んでいて」が各3件である。

こたつに関しては「布団で転倒」が8件、「転落」が3件、「ぶつかる」が2件である。

主な事例等		保護者が考える原因
布団の端を踏んで滑る	実家でこたつ布団の端を踏んで滑り転倒した。転倒した際、こたつの天板に手をついたので熱いもの等があったらとヒヤッとした。大泣きはしたがケガはなかった。	☆不注意
走ってつまづく	部屋の中を走り回っている最中に、布団につまずいて転倒。転倒した際におもちゃ箱に目の横をぶつけて出血。病院に行き5針縫った。 《その後の防止対策》 おもちゃ箱の移動。	☆不注意
遊び	たたんで部屋の隅に置いていた布団(3組分)の上に乗って飛び降り、上の子の真似をして遊んだ。着地に失敗し、押入れの柱の角にぶつかり目蓋を切った。 《その後の防止対策》 子供たちに言い聞かせて、嚴重注意した。	☆たたんだ布団から飛び降りて遊んだことが問題。
足に絡まる	1歳か2歳ぐらいの時、リビングで布団を掛けて寝て、明け方ぐずって起き、足に布団が絡まり転倒した。近くにあったローテーブルに目の横をぶつけ、切れてしまい病院で4から5針縫った。 《その後の防止対策》 テーブルの縁にシリコン製の保護材をつけた。	☆不注意

リ) カーペット、マット、ラグ

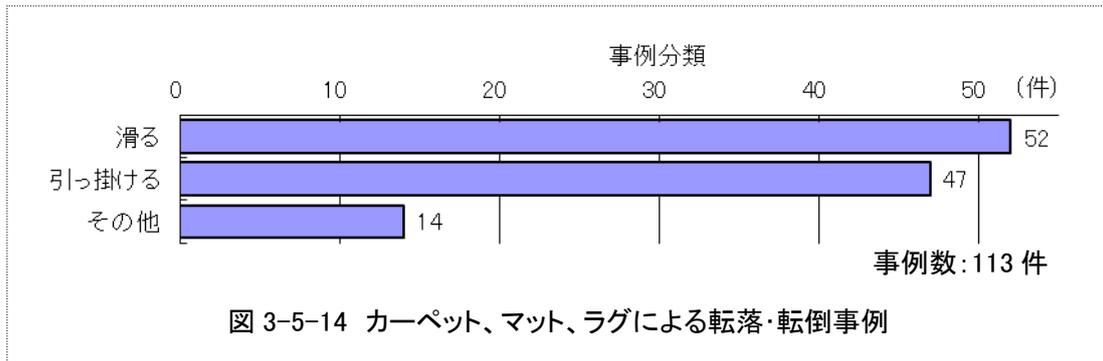


図 3-5-14 カーペット、マット、ラグによる転落・転倒事例

「滑る」は 52 件、「引っ掛ける」は 47 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
引っ掛ける	リビングで走り回っている際、カーペットの縁に足を引っ掛けて転倒。子供は泣いていたがケガ等はなし。	☆不注意
動きやすいマットで滑る	娘 4 歳の時、トイレで水を流そうとコックをひねるときに急いだらしく、マットが滑り当人が倒れた。マットは小さくて動きやすく、古くなって滑り止めが効かなくなっていた。ケガはなし。 《その後の防止対策》 大きいものに買い替えた。	☆不注意
めくれた部分につまずいた	カーペットの角の少しめくれている段差につまずいて転んだ。 《その後の防止対策》 びょうで押さえた。	☆不注意
滑り止めが劣化	動きが活発になった 2 歳頃、室内を走り回ることは十分予想していたので、ラグの下に滑り止めのマットを敷いていたのだが、目を追うごとに品質が劣化してきたのか、ある日気づくと滑り止めマットごとラグが滑り、子供が思いっきり尻もちをついて転んだ。大きなケガはしなかった。 《その後の防止対策》 滑り止めマットを強力なものに変えた。	☆製品の経年劣化 ☆不注意

㊦ 畳

走って転倒する事例が目立つ。靴下をはいて滑る事例もある。畳の縁や段差による事例も見られた。

主な事例等		保護者が考える原因
走って畳の縁に引っ掛ける	部屋の中を走り回っている途中、畳の縁に足を引っ掛けて転んだ。	☆どうしようもない
遊ぶ	実家に帰省した際、普段あまり目にしない畳の目に沿って、スケートのようにスライディングしていたところ転倒した。	☆不注意
段差につまずく	自宅に畳がないため、90cm角の畳を数枚置いております。その段差は約2cmほどですが、赤ちゃんや乳幼児には危険ですね。案の定、手を滑らせたり、脚が突っかかり転倒。	☆不注意
靴下をはいて滑る	意外と滑ります。少し走るだけでも畳の縁に沿って滑ってしまうようで、滑り止めの靴下も意味がないです。フローリングも同じことが言えます。	☆不注意

f) フローリング

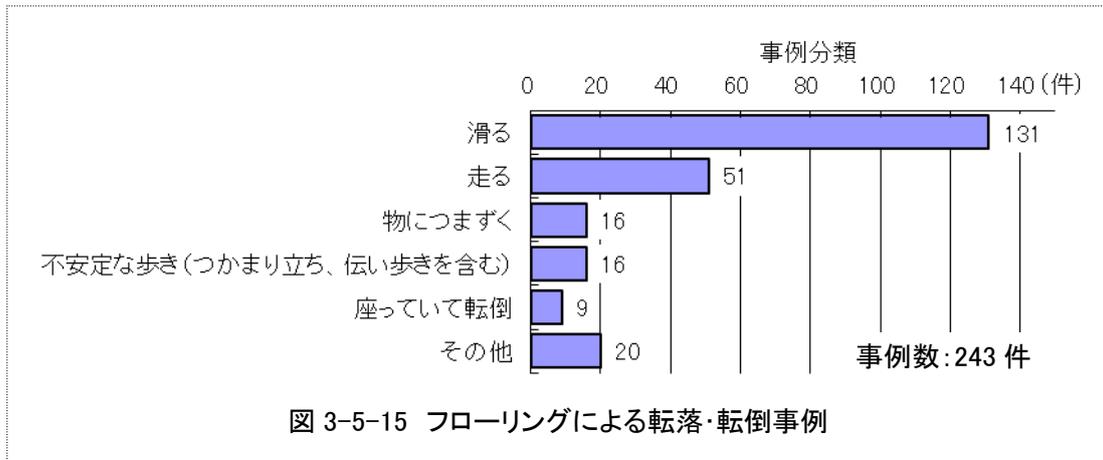


図 3-5-15 フローリングによる転落・転倒事例

「滑る」は 131 件で最多である。

「走る」は 51 件、「物につまずく」「不安定な歩き(つかまり立ち、伝い歩きを含む)」は各 16 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
靴下をはいて走る	娘に靴下をはかせて出掛けようとした際、娘が廊下を走ってしまいリビングで滑って転倒。上の前歯でフローリングを削ってしまい、その破片が歯茎に刺さってしまった。歯茎から流血し、歯医者に連れて行った。破片は主人が取り除き残っていなかったが、前歯が奥に入ってしまった。 《その後の防止対策》 自分で滑り止め液を買い、子供の靴下全部に滑り止めを施した。	☆ある程度の年齢までの靴下には滑り止めが付いている。しかし、まだまだ小さい年齢から突然滑り止めがなくなる。
歩き初め頃	歩き初め頃、2歩くらい進んでは後ろに倒れる。フローリングで硬い床に頭を打ちつけるので、マットを引いて解消した。 《その後の防止対策》 マットを敷く。	☆不注意
物を踏んで滑る	フローリングの上に紙が散らばっていて、子供が走ってきて滑って転び頭を打った。 《その後の防止対策》 紙を散らかさないように常に注意している。	☆不注意
滑りやすい状態の床	リビングで焼肉をしたら、その油のせいか床がつるつるに。3歳の息子が転倒。 《その後の防止対策》 焼肉をするときは新聞紙を敷くことにした。	☆不注意

ツ) 窓

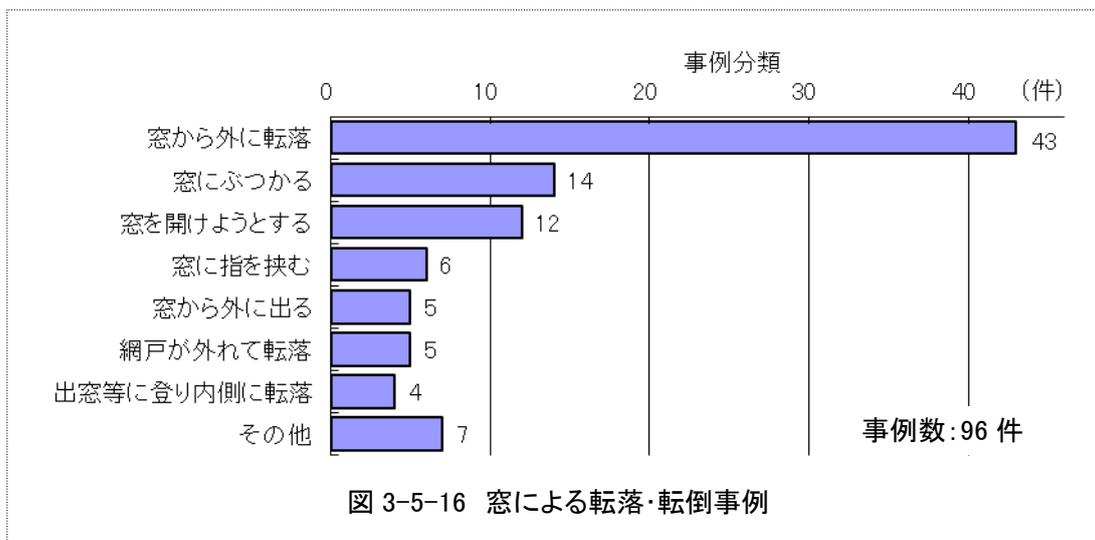


図 3-5-16 窓による転落・転倒事例

「窓から外に転落」は 43 件で最多である。

「窓にぶつかる」は 14 件、「窓を開けようとする」は 12 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
窓を開けてのぞきこむ	窓沿いにベッドがあったときがあり、子供が乗り越えられるようになった際、窓を自分で開けてのぞきこもうとしたことがあり、危ないと感じた。窓自体にも小さな柵はあったが、子供でも簡単に乗り越えられそうであり不安を感じた。 《その後の防止対策》 窓ロックを買ってきて、必要以上に開かないようにした。	☆不注意
鍵を外して窓を開ける	息子が 2 歳ぐらいの時に、家具を運び出し出窓によじ登り、鍵を開けて窓を全開にしていた。マンションの 4 階で、転落していれば死んでいた可能性が高かったのでヒヤリとした。 《その後の防止対策》 鍵を開けられないように窓の上の方に補助錠をつけ、つかえ棒も取り付けた。	☆不注意
開いていた	吐き出し窓にて、窓が閉まっていると思った子供がカーテンの中に走り寄り隠れようとして、窓に寄り掛かろうとしたところ転落した。 《その後の防止対策》 窓を開けるときは網戸を閉めるようにした。	☆不注意
網戸が外れる	夏場に網戸に触って体の重みで網戸が外れてバルコニーへ転倒した。 《その後の防止対策》 はめ込む金具を調整した。	☆製品の経年劣化

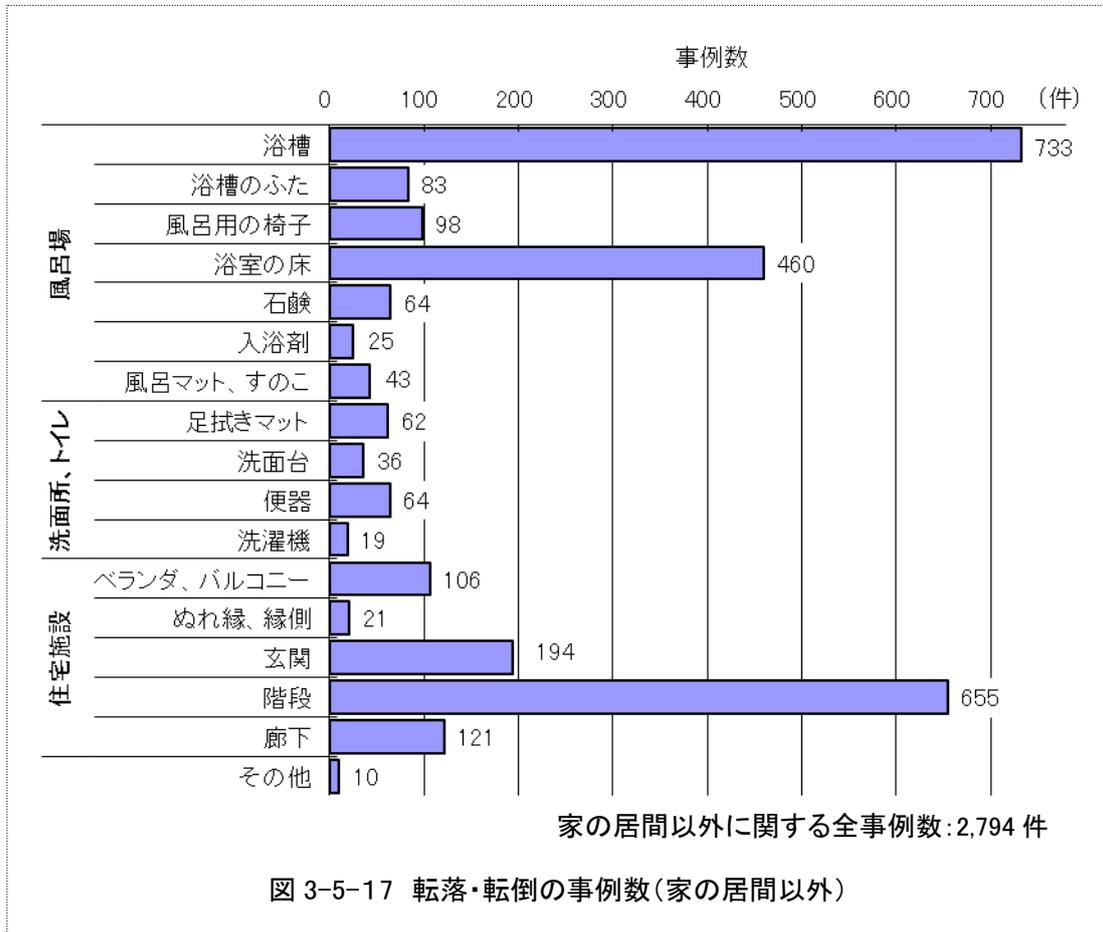
㊦) 押入れ、クローゼット

中に入って遊び転落する事例が目立つ。飛び降る、中から扉に寄り掛かる、よじ登る、布団と一緒に転落するおそれ等の事例がある。

主な事例等		保護者が考える原因
飛び降りる	息子が5歳の時に押入れに入って遊んでいて、飛び降りた際、肘の関節を骨折。	☆不注意
扉に寄り掛かる	中に入って遊んでいて、扉を中から閉めて寄り掛かったらしく、扉が開いてころがり落ちた。 《その後の防止対策》 遊ばせない。	☆不注意
よじ登る	1歳の時、押入れに登って遊ぼうとして、足を滑らせ押入れの段に顎をぶつけた。歯があたって口の中を切った。	☆誤使用
布団と一緒に転落	子供全員(2歳から8歳(現在))押入れに入りたがる。今のところ事故はないが、布団がなだれ落ちてきてしまいそうで、ときどき不安になる。 《その後の防止対策》 布団をしまうときに平らにしまう。余裕があるときは、そばに付き添う。	☆不注意

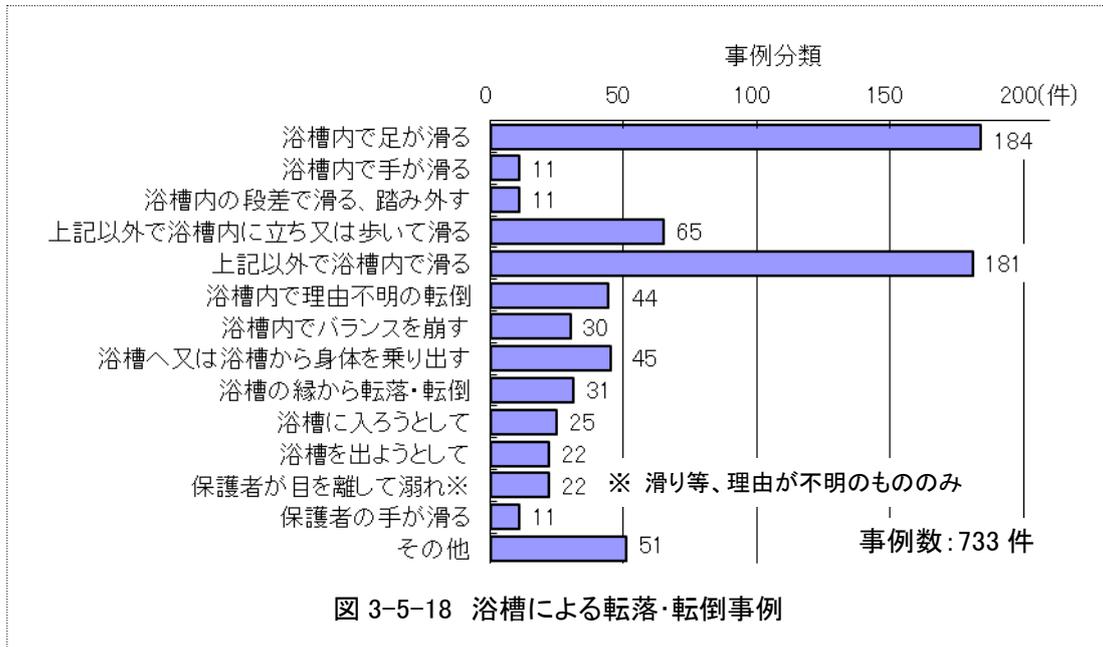
## イ 家の居室以外

家の居室以外では、回答者1人に対し最大3件の事例を求めた。  
 本事例調査で回答された製品等名の件数を「図3-5-17」に示す。



次に製品等ごとの事例を示す。

7) 浴槽



浴槽内で滑る事例が多く 452 件 (=184 件+11 件+11 件+65 件+181 件) である。

「浴槽へ又は浴槽から身体を乗り出す」が 45 件、「浴槽の縁から転落・転倒」が 31 件、「浴槽内でバランスを崩す」が 30 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
滑る	子供を湯船に入れて(10cm 程度のお湯の量)、自分は髪の毛を洗っていた際、急に子供の声が聞こえなくなったと思ったら、足を滑らせて子供が溺れかけていた。慌てて引きずりあげたので大事には至らなかった。 《その後の防止対策》 滑り止めマットを湯船に敷いた。	☆不注意
浴槽内のおもちゃを取ろうとする	私が洗っている間、一人で湯船に入れておくのは危ないと思い、洗い場に一緒にあげていたが、湯船に浮いたおもちゃ(手が届かない位置に浮いていた)を取ろうとして、滑ってバランスを崩して、顔からお湯に突っ込んでいった。慌ててすぐに引きあげたので大丈夫だった。 《その後の防止対策》 子供と一緒におもちゃも洗い場にあげるようにした。	☆不注意
浴槽の縁から手を放す	1歳で浴槽の縁に自分でつかまって入浴できるようになったので、見守りながら親が自分自身の体を洗ったりしていたら、突然手を放して溺れた。慌てて抱きかかえて無事だった。	☆不注意
踏み台を使用	我が家は風呂釜タイプで風呂釜の高さが 1m ほどあり、小さな子供が 1人で出入りするには、椅子等を踏み台にしなければなりません。娘もそうしていたのですが、焦って転落し(浴槽から出るときに)浴室の床に体を打ちつけてしまいました。手をついたそうなのですが、肩まで響き、骨折まではしなかったものの、捻挫で 1 か月ほど通院しました。	☆不注意

4) 浴槽のふた

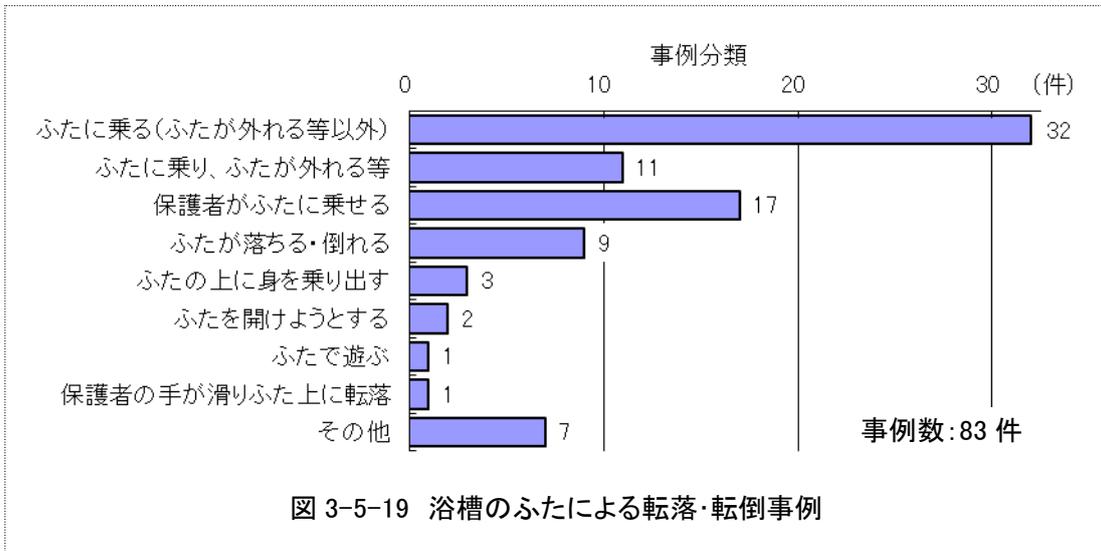


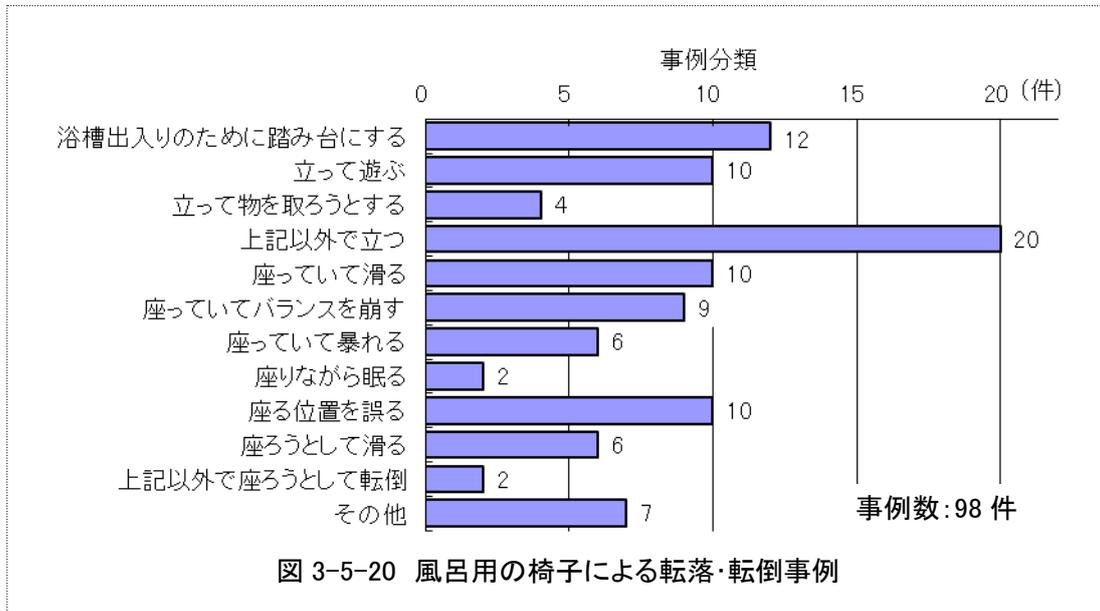
図 3-5-19 浴槽のふたによる転落・転倒事例

「ふたに乗る」が 43 件(=32 件+11 件)で最も多く、事例の半数以上である。この内 11 件は「ふたが外れる等」の事例である。

「保護者がふたに乗せる」は 17 件、「ふたが落ちる・倒れる」は 9 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
ふたに乗る	風呂のふたに乗って窓をのぞこうとするので、やめるように言ったが、降りなかった結果風呂内に転落。	☆不注意
ふたの上で着替え	浴槽のふたの上で子供の着替えをしていた際、ふたが浴槽に落ちてしまい、落ちてしまった。	☆不注意
ふたの上に子供の浴槽を設置	ふたの上に置いた乳児用のプールでお風呂に入れており、落下が心配。	☆不注意
ふたがずれる	ふたの上のおもちゃを取ろうとして、ふたごとすり落ちた。幸い水も張ってなく、下まで落ちなかったのでケガなくすんだ。 《その後の防止対策》 滑り止めをつけた。	☆製品構造に問題 ☆不注意

ウ) 風呂用の椅子

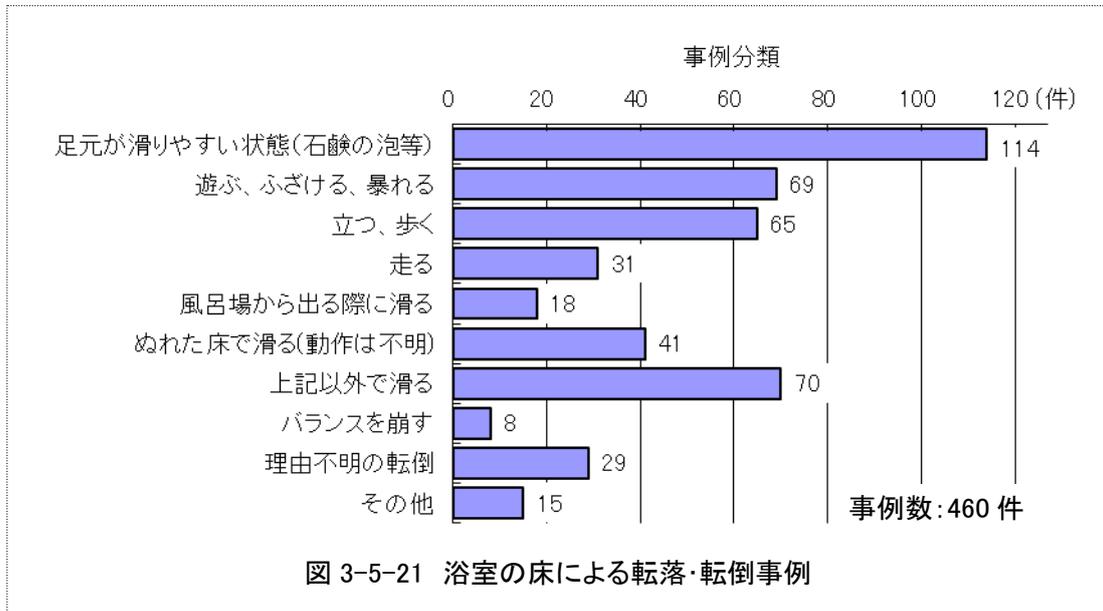


「椅子に立つ」が 46 件(=12 件+10 件+4 件+20 件)で最も多い。この内 12 件は「浴槽出入りのために踏み台にする」事例である。

「座っていて滑る」「座る位置を誤る」は各 10 件、「座っていてバランスを崩す」は 9 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
踏み台にして滑る	浴槽から上がる際に踏み台代わりにしている。これが一度滑って、浴槽の縁で脇腹を打った。打撲のみだったが、頭から浴槽に落ちたらと考えると恐ろしい。 《その後の防止対策》 子供への指導と風呂の椅子を滑りにくいものに交換。	☆誤使用 ☆不注意
遊ぶ	娘が 3 歳の時、お風呂の椅子の上で踊ったりしていたら、ぬれた床に椅子がスリップして転倒。危ない思いをしました。	☆不注意
バランスを崩す	大人用のお風呂の椅子に座っていてバランスを崩して転倒した。 《その後の防止対策》 勝手に動かないように手を添える。	☆不注意
ストッパーを外す	娘が 4 か月の頃にお風呂用の椅子に座らせて洗っていたところ、洗いにくいでストッパーを外して手で押さえていた。突然勢いよく身体を動かしたため、危うく椅子から落ちそうになってしまった。 《その後の防止対策》 必ずストッパーを活用した。	☆不注意

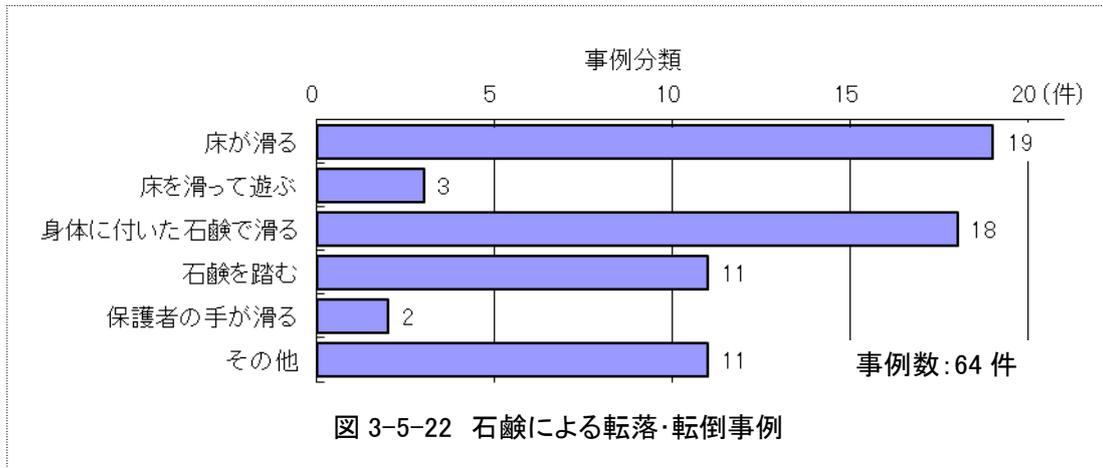
エ) 浴室の床



「足元が滑りやすい状態(石鹸の泡等)」が114件と最も多い。  
 「遊ぶ、ふざける、暴れる」が69件、「立つ、歩く」が65件、「走る」が31件である。

主な事例等		保護者が考える原因
泡で滑る	娘が1歳の頃、浴室の排水口の掃除を怠っていたため、ボディシャンプーの泡の残りが床に溜まっており、娘が椅子から立ち上がった際に足を滑らせ転倒しそうになった。手で支えたためケガはしなかった。 《その後の防止対策》 2週に1度は排水口の清掃をしている。	☆不注意
滑って蛇口にぶつかる	洗い場で子供の体を洗おうとしたとき、子供が滑って転んだ際に水道の蛇口に頭をぶつけ、7針縫うケガをした。 《その後の防止対策》 蛇口は必ず横に倒すようにした。	☆不注意
滑って浴槽下に腕が潜り込む	滑って転び、浴槽の下の開いている空間に腕が入ってしまい、擦り傷と軽い打撲。 《その後の防止対策》 床にマットを敷きました。	☆製品構造に問題
ぬれた床で滑る	息子が3歳の時、お風呂場でふざけていた時に床がぬれていたため、滑って浴槽に頭をぶつけた。 《その後の防止対策》 子供にお風呂場でふざけることは危険であることを伝えた。	☆不注意

カ) 石鹸



床が滑る状態での事例が 22 件 (=「床が滑る」19 件+「床を滑って遊ぶ」2 件)である。

「身体に付いた石鹸で滑る」は 18 件、「石鹸を踏む」は 11 件、「保護者の手が滑る」は 2 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
バランスを崩す	3歳の時に、子供を立たせて石鹸で体を洗っていたらバランスを崩して転びそうになった。 《その後の防止対策》 お風呂椅子に座って洗うようにした。	☆不注意
床と同色で見つらい	ボディークリームがこぼれていたが、床と同じ色なので気づかず滑って転んだ。 《その後の防止対策》 置き場所を変えた。	☆不注意
足元に石鹸が置かれている	体を洗っていて、無造作においた石鹸を踏んで思いっきりひっくり返った。 《その後の防止対策》 石鹸を床に置かない。	☆不注意
子供一人で入浴	一人で風呂に入れるようになると、体を洗ったりした後、体を洗った後の床を十分に流さなかったり、石鹸(の欠片)を放置したのを踏んだりして滑って転びそうになったことがあった。	☆不注意

か) 入浴剤

滑る事例が多い。入浴剤の投入量が多いために、底にたまった入浴剤で滑る事例も見られる。

入浴剤による湯の濁りで、浴槽内の段差が見えず転倒する事例もある。

主な事例等		保護者が考える原因
浴槽で滑る	うるおい成分のある入浴剤を入れたときに、子供が先に1人で湯船に浸かり支えてあげる前に滑ってしまった。頭まで潜ってしまいびっくりした。 《その後の防止対策》 必ず自分が先に湯船に浸かるように心がけています。	☆不注意
滑って子供を支えづらい	赤ちゃんの肌が乾燥していたため入浴剤を入れたところ、つるつると滑るタイプだったので支えるのが大変でした。 《その後の防止対策》 つるつるする入浴剤の使用をやめた。	☆使い方の説明がない
底に溶け残る	入浴剤の量が適正ではなく溶けきれず、バスタブの底にたまっていて滑って転びそうになった。 《その後の防止対策》 大容量タイプだと量がわかりづらいので、個包装のタイプに変えた。	☆誤使用
浴槽内の段差が見えない	浴槽に大人が座れるように段差があったが、乳白色の入浴剤を入れていたので、段差が見えず転倒した。 《その後の防止対策》 入浴剤を使うのをやめた。	☆不注意

キ) 風呂マット、すのこ

風呂マットやすのこ自体が動いてしまい転倒する事例が多い。風呂マットのぬめりでマット自体が動く事例もある。

飛び跳ねて転倒する事例もあるため、風呂マットがあっても乳幼児の行動には注意が必要である。

主な事例等		保護者が考える原因
マットの裏が滑りやすい状態	息子が5歳の時に、風呂マットの裏がぬるぬるしていて、浴室に入ったときにマットごと滑って転倒しそうになった。 《その後の防止対策》 マットの裏をカビとり剤等でよく掃除してぬめりをとった。	☆誤使用
すのこが動きやすい	すのこがぬれていた床で滑り、子供がびっくり返って眉間をうち出血した。 《その後の防止対策》 すのこに滑り止めをつける。	☆不注意
遊ぶ	二男が浴槽の縁をつかみながらマットの上で跳ねていたら、ずれて浴槽に頭を打ち出血した。	☆不注意
マットを重ねて使用	滑り止め付きのしっかりしたお風呂マットの上に、小さいお風呂マットを子供用に置いていたら滑ってしまった。100均等ではなく、それなりのお値段で購入したマットだが、やはり裏の滑り止めが甘く、その上に立たせてしまったことが原因だと思います。 《その後の防止対策》 使用をやめた。	☆誤使用 ☆不注意

ク) 足拭きマット

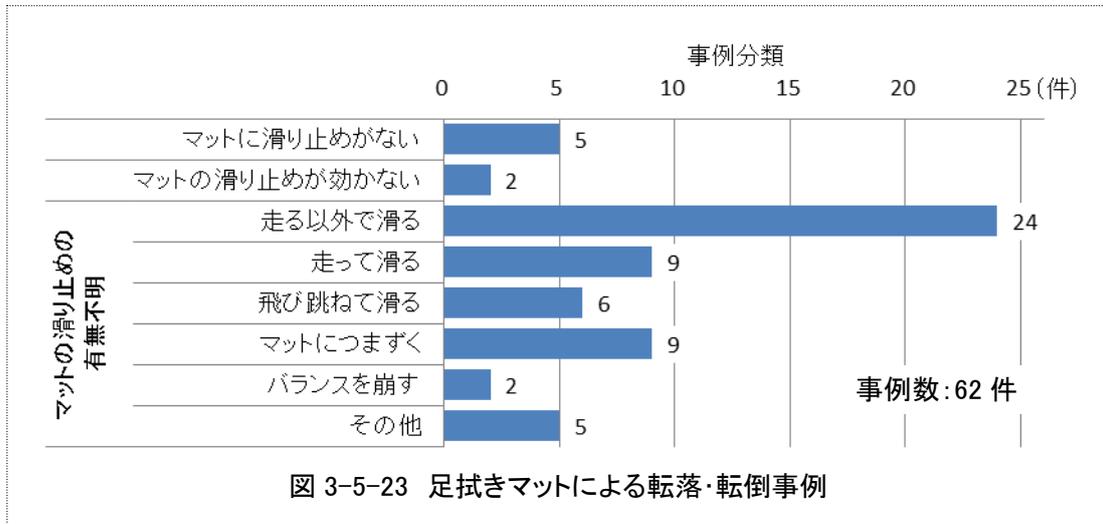


図 3-5-23 足拭きマットによる転落・転倒事例

「走る以外で滑る」が 24 件で最多である。これ以外で滑る事例は「走って滑る」は 9 件、「飛び跳ねて滑る」は 6 件である。

マットに滑り止めに関する記述では、「マットに滑り止めがない」が 5 件、「マットの滑り止めが効かない」が 2 件ある。

主な事例等		保護者が考える原因
滑りやすい製品	薄手のものであったのでよく滑っていた。子供は体重が軽いので余計に滑りやすかった。 《その後の防止対策》 裏に滑り止めシートを貼った。	☆製品構造に問題
床がぬれている	息子が 2 歳の時、洗面台の下に敷いてあるマット(滑り止めがついていない、厚手のタオル地)ごと滑り転倒した。頭を打ったが、ケガはなかった。後で見たら床がぬれていたためだった。 《その後の防止対策》 洗面所の床がぬれていないか気をつけ、ぬれていたらすぐ拭く。	☆不注意
飛び乗る	お風呂からジャンプして足拭きマットに飛び乗って、足拭きマットが動き転倒した。	☆不注意
つまずく	足拭きマットの下にすのこを置いて使用しているので、段差が少々あり、そこにつまずくことがある。現在ではそこに段差があるとの認識ができたようで、ちゃんとまたげるようになったので、ケガはしなくて済んでいる。	☆不注意

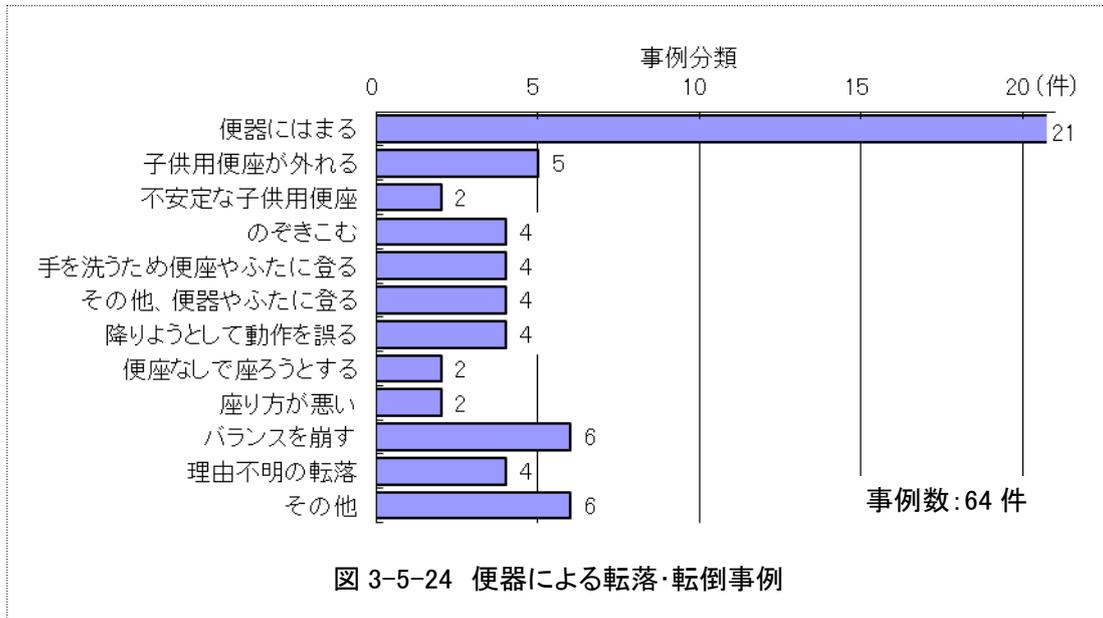
け) 洗面台

幼児が洗面台によじ登る事例、保護者が洗面台に乳幼児を乗せる事例がある。

歯ブラシを口に入れたまま、立っている椅子から転落しそうになった事例も見られる。

主な事例等		保護者が考える原因
よじ登る	洗面台によじ登って電気を消すようになってしまったので、必ず付き添って見るようにしている。 《その後の防止対策》 目を離さないようにする。	☆不注意
洗面台に座らせる	1歳になってすぐ、シャワーを浴びさせるために服を脱がせ洗面台に座らせたところ、目を離した間に転落した。大声で泣いた直後、白目を剥いて動かなくなったので、救急車を呼び脳神経外科へ搬送してもらった。CT撮影後帰宅し、翌日通院したが異常はなかった。 《その後の防止対策》 動けるようになったら高いところに乗せない。	☆不注意
洗面台でおむつ交換	まだ小さかった頃、お風呂上がりに洗面台の上でおむつをしたりしていた。寝返りがうてるようになった頃に危ないと感じた。 《その後の防止対策》 もう上には乗せない。	☆誤使用 ☆不注意
椅子を踏み台にする	歯を磨いていて椅子に立たせたら落ちそうになった。歯ブラシを口に入れていて危なかった。 《その後の防止対策》 もう椅子には立たせない。	☆不注意

コ) 便器



「便器にはまる」が 21 件で最多である。

子供用便座に関する事例では「子供用便座が外れる」が 5 件、「不安定な子供用便座」が 2 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
便器にはまる	3歳の頃、一人で子供用便座を使用を足すことができるようになったが、ある日泣き声が聞こえたので駆付けると、子供用便座を使っておらず、お尻が便座にはまって出られなくなっていた。 《その後の防止対策》 必ず子供用便座をのせるよう指導した。	☆誤使用
補助便座が外れる	トイレトレーニング中、補助便座を使っていた。座ってトイレをしなから音が鳴るスイッチを押して遊んでいたところ、補助便座と手を置く部分との連結部が外れて前のめりに転倒した。こちらも不注意だったが、あんなに簡単に外れては危ないと思った。 《その後の防止対策》 一時も目を離さないようにした。	☆製品構造に問題 ☆不注意
のぞきこむ	のぞきこんで手を伸ばし、頭から落ちそうになった。	☆不注意
ふたに登る	手洗い水洗付きのタンクのため、2歳くらいの時、便器のふたに登って手を洗おうとしたため転倒しそうになった。 《その後の防止対策》 下にステップ台を置いて、その上から手を洗うようにした。	☆不注意

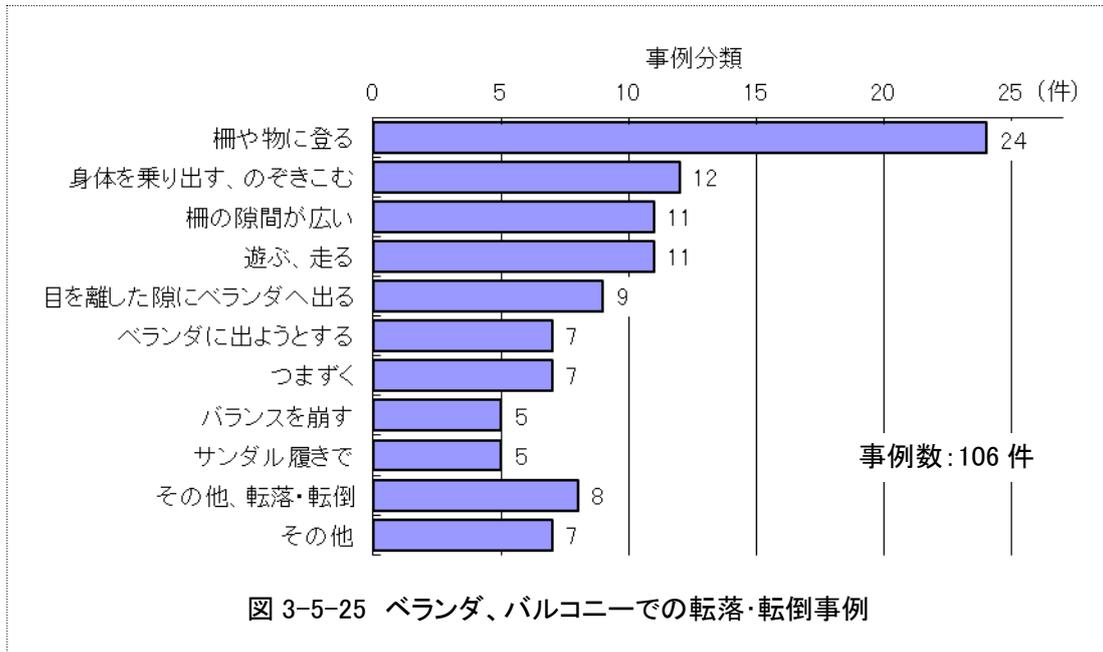
カ) 洗濯機

洗濯機の中をのぞきこむ事例が多い。入浴時に乳幼児を洗濯機の上に一時的に乗せる事例もある。

お手伝いで洗濯物を取ろうとする事例、洗濯機の中に入ろうとよじ登る事例も見られる。

主な事例等		保護者が考える原因
のぞきこむ	洗濯機に興味を持ち初めた頃、ぐるぐると洗濯槽が回る様子を見たかったらしく、自分でステップを洗濯機の前に持って行き中をのぞいていた。頭を入れようとしていたのでヒヤッとした。 《その後の防止対策》 ステップを高いところに置いておいた。	☆不注意
上に乗せる	子供をお風呂に入れ洗濯機の上に横にさせ、タオルを取るちよつとの隙に床へ転落した。 《その後の防止対策》 床等に寝かせるようにした。	☆不注意
お手伝い	洗濯物を干そうとしているとき、お手伝いをしながら洗濯機の中のものを取ろうとして落ちそうになった。 《その後の防止対策》 手が届くところまでにさせた。	☆不注意
よじ登る	息子が1歳の時に、洗濯機の中に入ろうとしていた。 《その後の防止対策》 ドアロック機能を使うようにした。	☆不注意

シ) ベランダ、バルコニー



「柵や物に登る」は24件で最も多い。

「身体を乗り出す、のぞきこむ」は12件、「柵の隙間が広い」「遊ぶ、走る」は各11件である。

主な事例等		保護者が考える原因
エアコンの室外機に登る	2歳の時、いろんなところに登るのが好きで、ベランダの室外機の上に登ってベランダの柵につかまり、ぴょんぴょん飛び跳ねていたので落ちそうで危なかった。	☆不注意
身を乗り出す	4歳の時、窓からベランダに乗り出し、頭から転倒し救急車で運ばれた。	☆ベランダに幼児の注意をひくものがあった。
網戸を乳幼児が開ける	ハイハイの時期に網戸を自分で開けて、けっこうな段差のあるベランダに落ちてしまった。 《その後の防止対策》 網戸ロックを購入してつけた。	☆不注意
網戸を押し破る	息子が1歳でまだハイハイをしていたころ、息子が網戸の下部を押し破りベランダに出たことがあった。ベランダの手すりの下部は隙間が広く(子供の頭くらいの隙間があり)、いつ頭から転落しやしないかとヒヤしていました。 《その後の防止対策》 網戸の補修。網戸を簡単に開けられないようにスライドロック機器の購入。	☆製品構造に問題

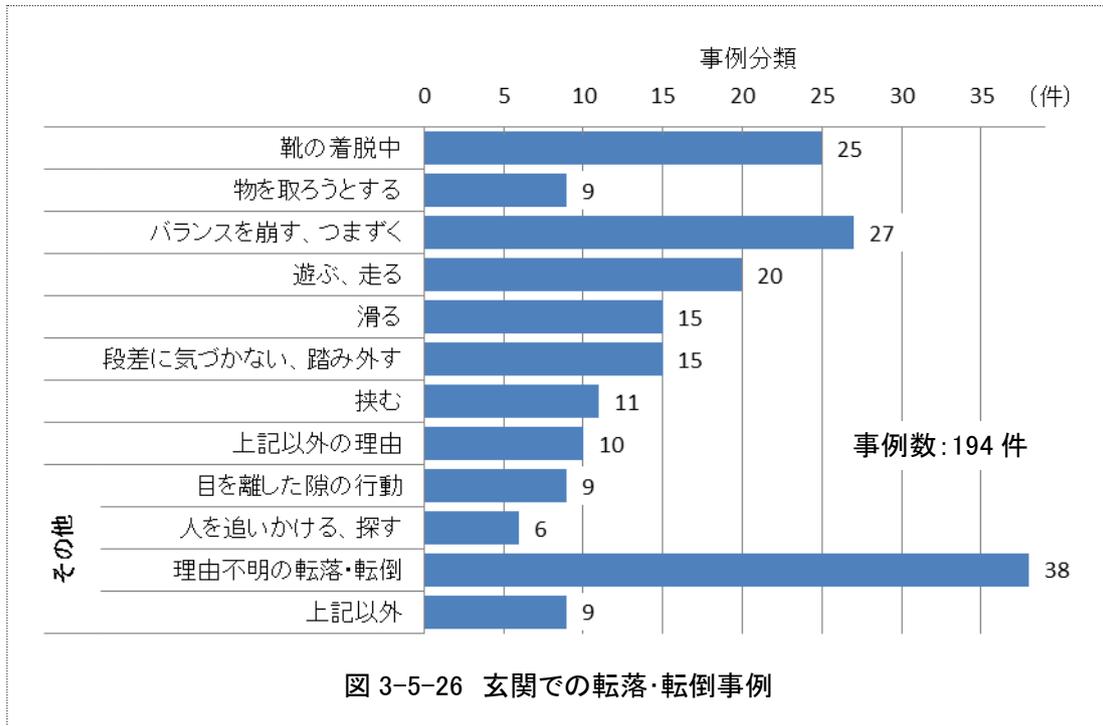
ス) ぬれ縁、縁側

見送りのために縁側に出たところで転落する事例、カーテンに触ろうとして転落する事例がある。

つまずいたり、凍った縁側で滑る事例も見られる。

主な事例等		保護者が考える原因
見送りのため外に出る	3歳の娘が父親のお見送りで、掃き出し窓から外に出て縁側に出てそのまま転落。庭に落ちたので顔を擦りむいただけで済んだ。 《その後の防止対策》 縁側に観葉植物を置いて出られないようにした。	☆不注意
開いた窓のカーテンを触ろうとする	娘が2歳の時。用事をするのに私が庭への掃き出し窓から出入りをしている、窓は開けたまま何故かカーテンが閉まっていた。風でふわっとなったカーテンを触ろうとして手を伸ばし、そのまま外の踏み台まで転んでしまった。 《その後の防止対策》 窓だけ開けた状態にしない。	☆不注意
遊ぶ	庭でシャボン玉をしているときに、まだよちよち歩きだったため庭へ降りるステップとしてある石につまずき、おでこを角にぶつけて切った。	☆不注意
滑る	雪が降ってぬれて凍った縁側に出ようとして、滑って落ちそうになった。	☆不注意

セ) 玄関



「バランスを崩す、つまずく」は27件で最も多い。  
 「靴の着脱中」は25件、「遊ぶ、走る」は20件、「滑る」「段差に気づかない、踏み外す」は各15件である。

主な事例等		保護者が考える原因
つまずく	帰宅する時、はしゃいでいてドアを開けたところの段差につまずいて前に勢いよく転んだら、ちょうど玄関の上がるころの縁の大理石でおでこをぶつけて、血が出て腫れ上がった。 《その後の防止対策》 慌てないでゆっくりと声をかける。	☆不注意
靴を履く	玄関のところに段があり、自分で靴を履こうとしたところバランスを崩し、頭から落ちてしまった。	☆不注意
靴を取ろうとする	靴を取ろうとしてハイハイで廊下から前進し、そのまま玄関に落下した。	☆不注意
玄関でベビーカーに乗せる	雨が降っていたので、玄関先でベビーカーに乗せてから下ろそうと思ったら、ベビーカーが動いて玄関から2段下にひっくり返った。 《その後の防止対策》 玄関から下ろして乗せるようにした。	☆誤使用 ☆不注意

リ) 階段

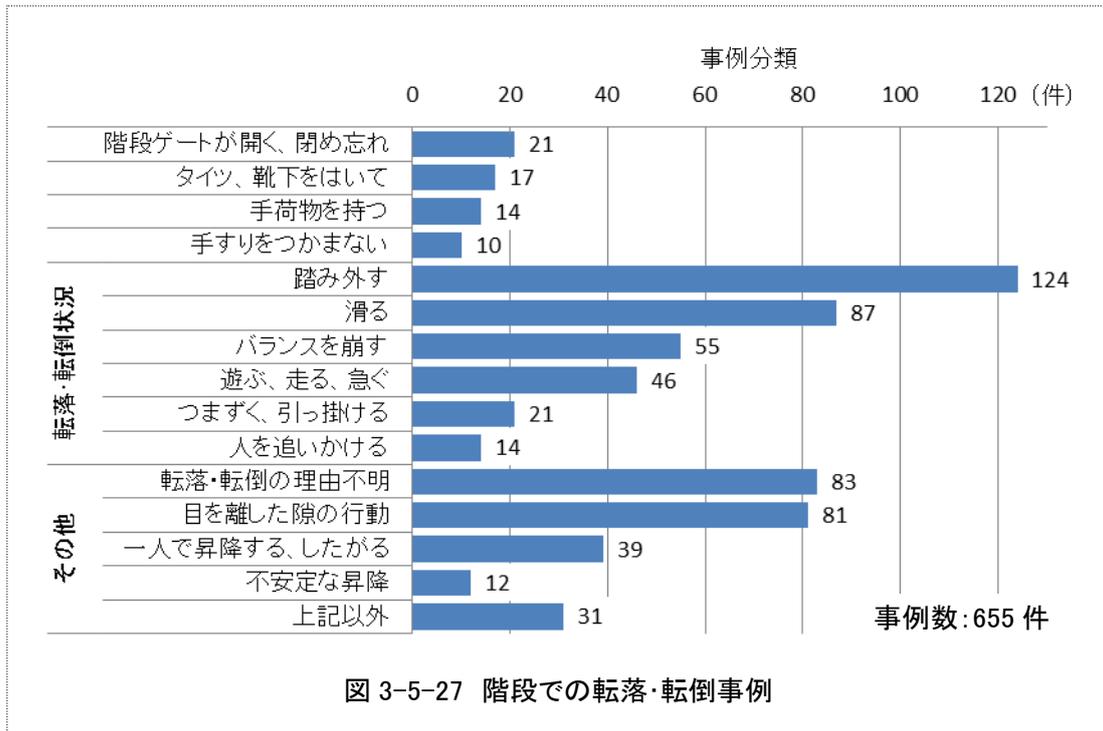


図 3-5-27 階段での転落・転倒事例

転落防止製品に関しては「階段ゲートが開く、閉め忘れ」が 21 件である。

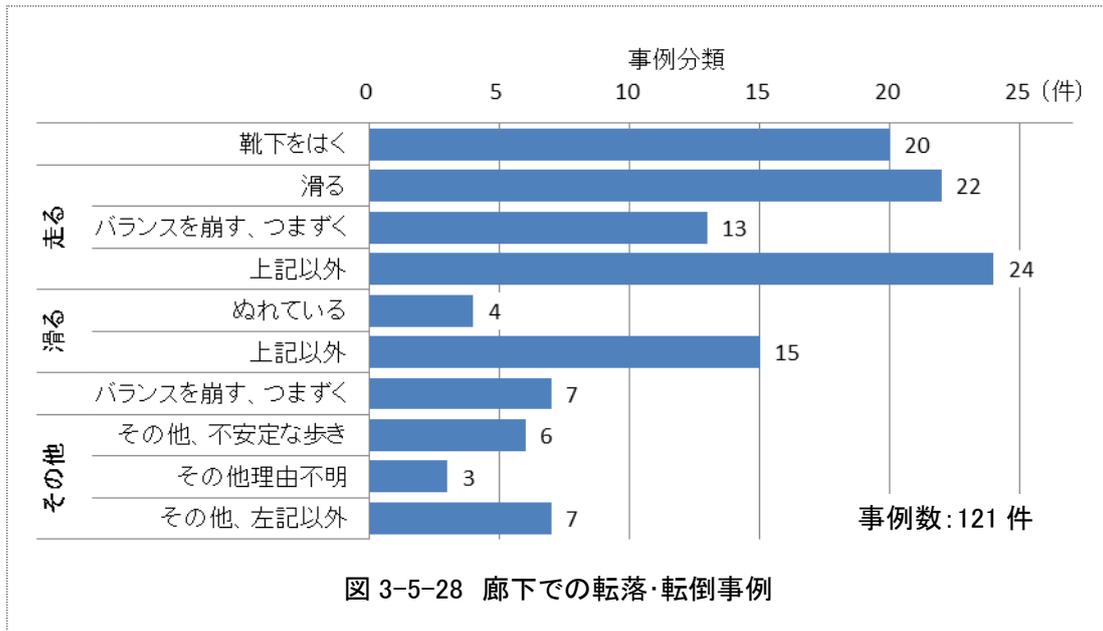
服装に関しては「タイツ、靴下をはいて」が 17 件である。

転落・転倒状況では「踏み外す」は 124 件で最も多く、「滑る」は 87 件である。

その他の内訳として、「目を離した際の行動」は 81 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
階段の柵が開いていた	階段の柵をしてなかったので、母親を追いかけ階段を登って、階段5段くらいから落ちて意識が混濁。すぐに救急車を呼び病院へ行った。硬膜内血腫で緊急手術をしたが、奇跡的にも後遺症等も残ることはなかった。 《その後の防止対策》 必ず柵をするようにした。	☆不注意
狭い足場で踏み外す	階段がらせんになっている箇所があり、狭い場所があるため1歳の息子の足が十分に踏み込めず、転落しかけた。 《その後の防止対策》 狭い箇所を歩かないように注意した。	☆製品構造に問題
子供を抱き大人が滑る	大人が抱っこして降りていたが、足を滑らせていっしょに落ちた。大っぴらな人は全身あざで、息子は左足をひねってしまい1週間以上足をつけられなかった。	☆不注意
目を離した際に	娘が1歳くらいの頃、まだ歩き初めて勝手に階段を降りて行こうとして、階段の一番上から転がり落ちた。踊り場で止まったのでちょっと頭をぶつけたくらいで特に腫れたりもしなかった。 《その後の防止対策》 部屋と階段の間のドアをきちんと閉めておくようにした。	☆不注意

㊦ 廊下



走っていて転落・転倒する事例は 59 件(=22 件+13 件+24 件)で最も多い。

「靴下をはく」状態での事例は 20 件である。

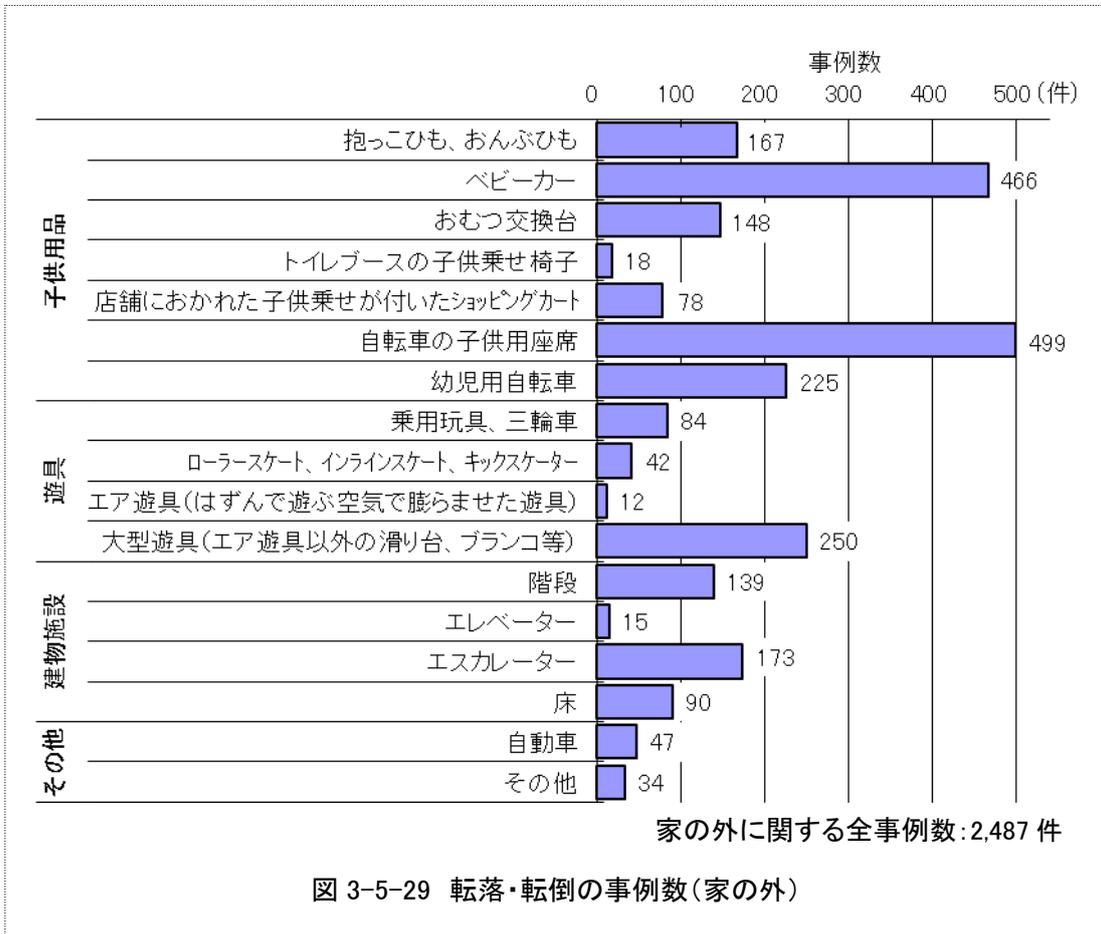
走るを除き「滑る」は 19 件(=4 件+15 件)である。

主な事例等		保護者が考える原因
走る	長女が 1 歳 3 か月で伝い歩きから自分の足でよちよち歩きをし初めた時、廊下を走って転倒してしまい上唇を少し切ってしまった。 《その後の防止対策》 廊下には物を置いたり、滑りやすい環境を作らないように配慮している。	☆不注意
段差につまずく	廊下を走って部屋の入り口の段差につまずき転倒した。 《その後の防止対策》 走らないように指導。	☆不注意
遊ぶ	フィギュアスケートの真似をして靴下をはいて滑っていたら転びそうになった。	☆不注意
水拭き	牛乳をこぼした後に水拭きをすると非常に滑りやすくなり転んだ。 《その後の防止対策》 念入りに水拭き。	☆不注意

## ウ 家の外

家の外では、回答者1人に対し最大2件の事例を求めた。

本事例調査で回答された製品等名の件数を「図 3-5-29」に示す。



次に製品等ごとの事例を示す。

ア) 抱っこひも、おんぶひも

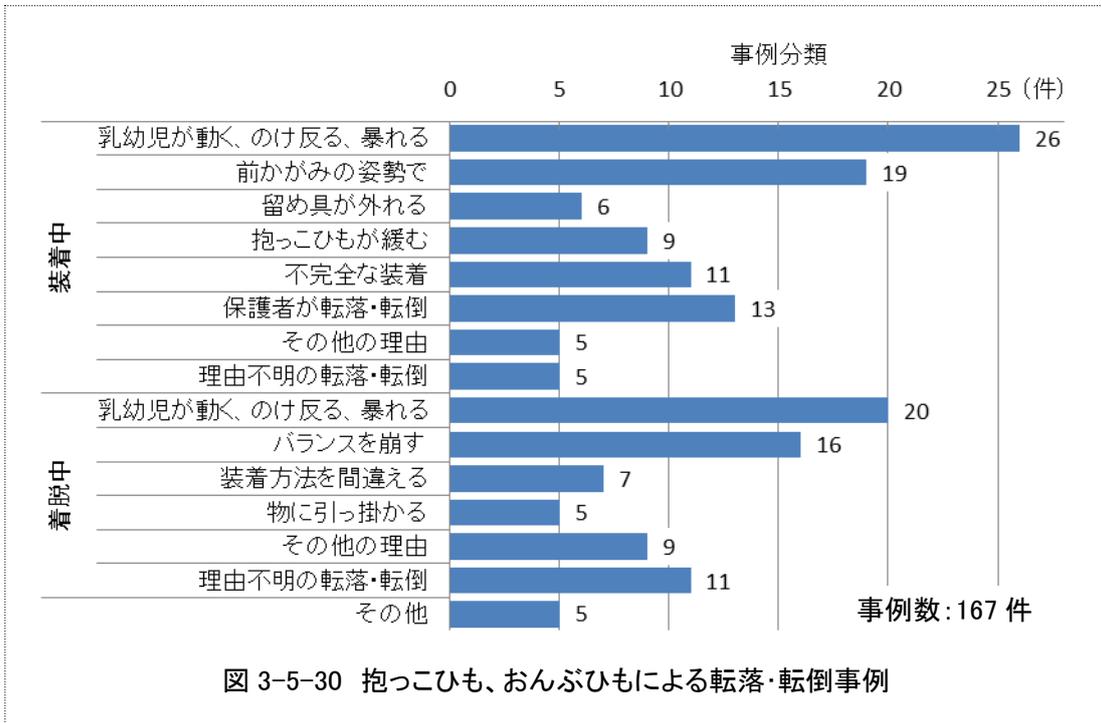


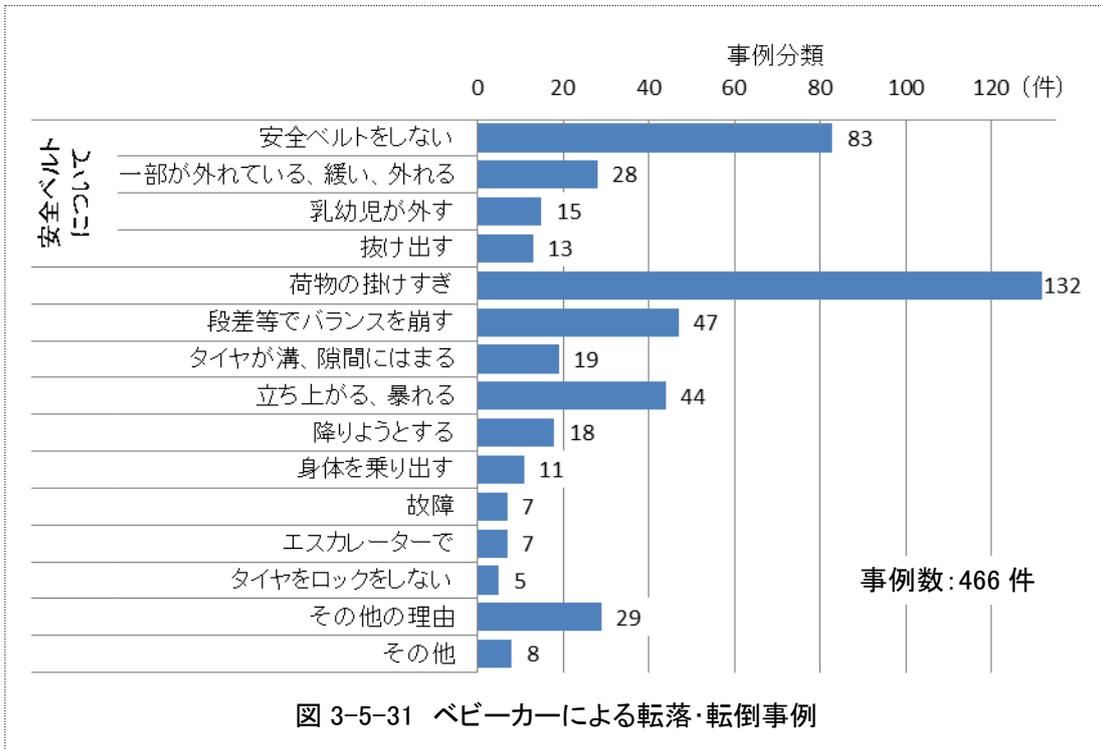
図 3-5-30 抱っこひも、おんぶひもによる転落・転倒事例

装着中、着脱中ともに「乳幼児が動く、のけ反る、暴れる」が最も多く、装着中では 26 件、着脱中では 20 件である。

装着中「前かがみの姿勢で」は 19 件、着脱中「バランスを崩す」は 16 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
乳幼児が抜け出そうとする	外出先で抱っこひもから降りたがり、無理やり体を反らして体を出そうと試みた結果、脱出できてしまった。カーペット敷きの場所だったのでできるかどうかを見守っていたのだが、本人にその気があれば、抱っこひもから簡単に出られることが分かった。 《その後の防止対策》 子供によく言い聞かせている。	☆製品構造に問題
前かがみの姿勢	0歳児の後半、抱っこひもを装着して、子供を抱っこしたまま靴を履こうと前かがみになった時、ずり落ちそうになった。 《その後の防止対策》 片手で抑えて、前かがみになるように注意した。	☆不注意
留め金が外れる	装着の留め金がしっかり止まっていなかったのか、歩行中にいきなり外れて赤ちゃんがずり落ちそうになった。赤ちゃんは泣くわ床には置けないし通行人を呼び止める等大変でした。 《その後の防止対策》 装着時に更にしっかり確認するようになった。	☆誤使用 ☆不注意
装着時の危険	抱っこひもで、一度抱っこの状態にしてからおんぶをするタイプの物は、体を半周回さないといけないので割と危ない。一度落とすそうになった。	☆不注意

イ) ベビーカー



「荷物の掛けすぎ」が 132 件で最も多い。

「安全ベルトをしない」は 83 件、「段差等でバランスを崩す」は 47 件、「立ち上がる、暴れる」は 44 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
ハンドルに荷物を掛ける	ベビーカーのハンドルに荷物を掛けすぎで転倒した。安全ベルトを装着する前だったため、本人もベビーカーから投げ出された。 《その後の防止対策》 安全ベルトを先に着け、重いものは下のかごへ置く。	☆不注意
安全ベルトを着けない	横断歩道をベビーカーに乗せて渡った後、歩道に上がる前にちょっとした段差で車輪が進まず急停車する形となり、ベルトを嫌がってしていなかったため前に落ちた。	☆誤使用 ☆不注意
降りようとする	歩けるようになると、だんだん乗っていることが嫌になってきたりして無理やり降りようとするのがあった。使っているベビーカーの安全ベルトは腰だけのタイプなので、ちょっと体をねじればずりりと抜けることができってしまうので、だだをこねながら簡単にシートに立つことができてしまう。	☆製品構造に問題
エスカレーターに乗る	デパートでエレベーターを使わずエスカレーターで下りたときに、息子が急に前に重心を移したため、ベビーカーごと落ちそうになった。 《その後の防止対策》 必ずエレベーターを使うようにした。	☆自分が面倒くさがってエレベーターを使わなかった

わ) おむつ交換台

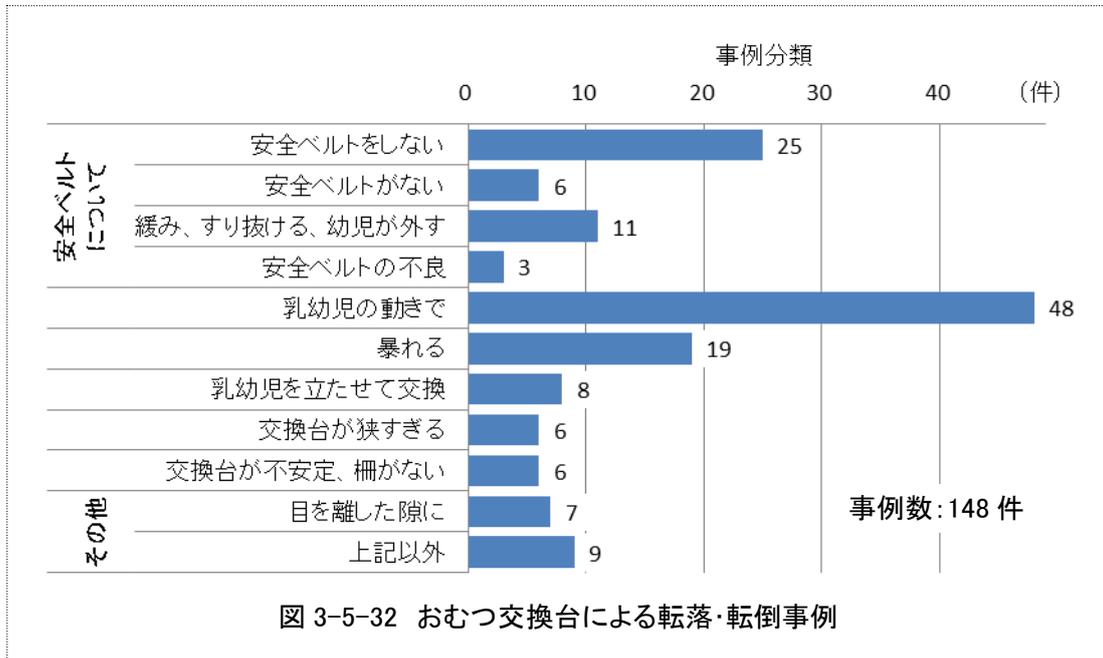


図 3-5-32 おむつ交換台による転落・転倒事例

「乳幼児の動きで」が48件で最も多い。

安全ベルトに関する事例は45件(=25件6件11件3件)あり、このうち「安全ベルトをしない」が25件である。

主な事例等		保護者が考える原因
安全ベルトが着けづらい	いつも思っていたが、おむつ交換台は落下防止ベルトを着けるのを子供は嫌がるし、ベルトを着けるのに時間がかかるし、無理やり着けようとするひっくり返ろうとして更に危ないし、必ずベルトを着ける親は少ないのではないか。もう少し簡単に着けやすいベルトにするとか、交換台の上に子供が喜ぶようなおもちゃをぶら下げて気をそらせるとか、工夫ができればいいのではないか。	☆製品構造に問題
安全ベルトをしない	大丈夫だと思って、ベルトで縛りつけなかったら落ちた。丁度ベビーカーが下にあったので、ぶつかって赤ちゃんはおでこをぶつけたくらいで何とかだったが、おでこに凹み傷がついてしまった。 《その後の防止対策》 必ずベルトで縛るようにした。	☆不注意
安全ベルトが伸びすぎる	落ちてはいないが、寝返りをうちだした頃急にひっくり返り落ちるかと思った。ベルトはしていたが、伸びるタイプでそのまま体の重さで落ちそうになった。 《その後の防止対策》 必ず子供に触れている。	☆製品構造に問題 ☆不注意
立って交換する	立てるようになってからの交換が危ない。はかせるタイプのおむつになると寝っ転がらないので立たせるので、視界が変わって楽しいらしく暴れる。	☆不注意

e) トイレブースの子供乗せ椅子

乳幼児が嫌がり暴れる事例、椅子のサイズがあわない事例、座面が滑る事例がある。

主な事例等		保護者が考える原因
暴れる	上から乗せるタイプで乗せようとしたら、嫌がり入らなかった。足が引っ掛かり、両手も塞がっていて子供が暴れ出したので、押されて倒れそうになった。	☆製品構造に問題
椅子が大きい	4 か月の子を座らせた際、椅子が大きすぎるため前のめりになりすぎ、頭から転倒するのではとハラハラする。 《その後の防止対策》 下にタオルを敷いて座らす。	☆製品構造に問題
椅子が小さい	子供の身体よりも椅子が小さかったのか、狭くて嫌がって立ち出ようとした。 《その後の防止対策》 なるべく目を離さないように注意した。	☆不注意
座面が滑る	座る所が滑るので、ふらふらとするときがあった。	☆お座りできる年齢だが足が細くて滑るかもしれない

カ) 店舗におかれた子供乗せが付いたショッピングカート

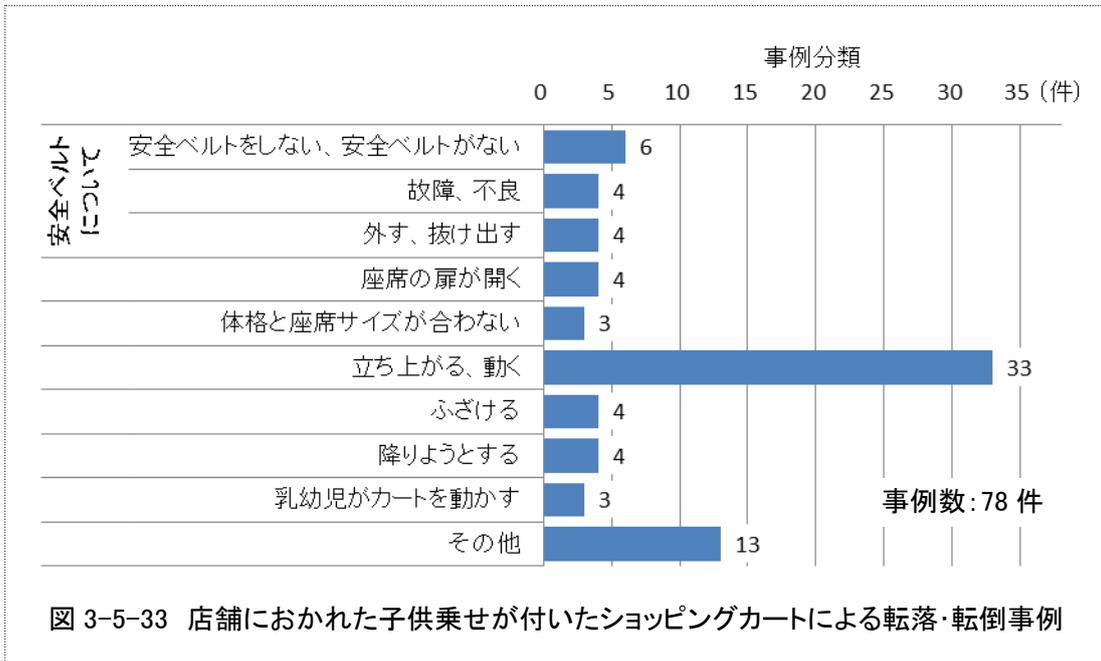
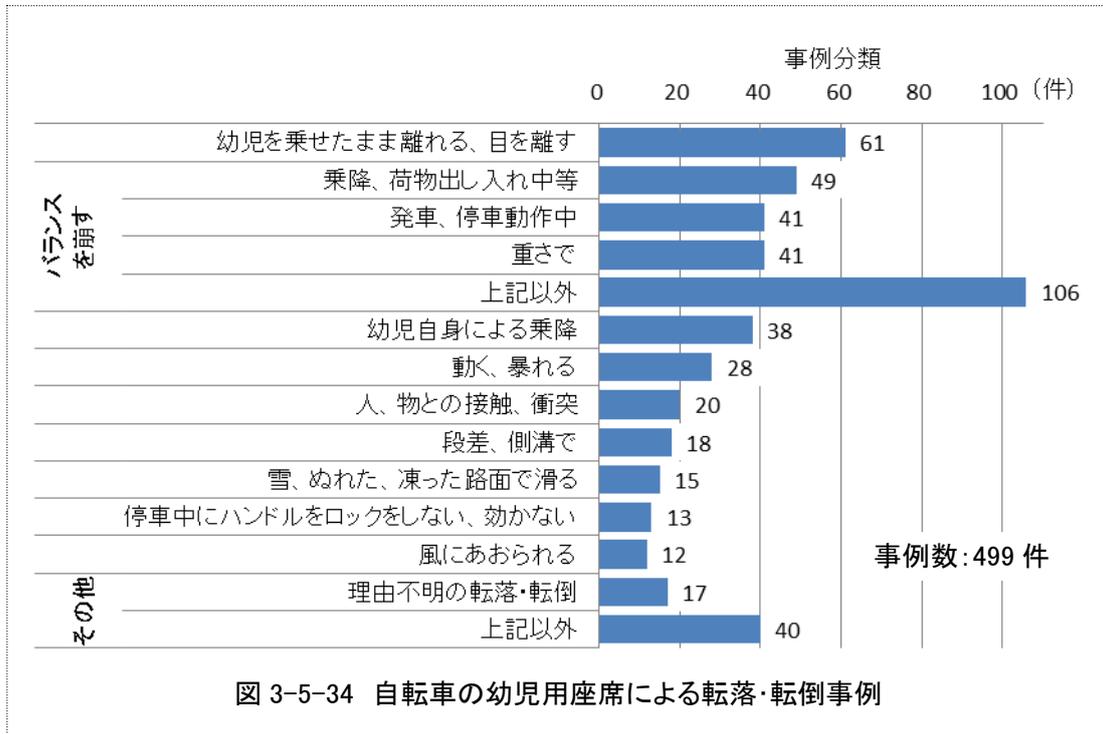


図 3-5-33 店舗におかれた子供乗せが付いたショッピングカートによる転落・転倒事例

「立ち上がる、動く」が 33 件で最も多い。  
 安全ベルトに関する事例は 14 件 (=6 件+4 件+4 件) である。  
 「座席の扉が開く」「ふざける」「降りようとする」は各 4 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
立ち上がる	レジで籠をレジ台に乗せようとカートから手を離れた際、レジ脇のキャラクターお菓子に触ろうと子供が立ち上がり(椅子にベルトや抑えはなし、カートの車輪が動いて3歳の息子が転倒した。ぐったりして吐いたので救急病院に連れて行った。CTを撮ったが脳に異常はなかった。子供が立ち上がるのはよくあることなので、それができないようにするのはメーカーの義務だと思う。ベルトタイプでも抜け出してしまうので安全とは思えなかった。今まで使って一番安全と思ったのは、お腹部分の板が動くようになっており、座らせた後にひもを引いてお腹に板を密着させるタイプ。 《その後の防止対策》 立たないように子供に言い聞かせる。聞かないときは持参したベルトを使って固定する。	☆製品構造に問題
身を乗り出す	今でもそうだが、お店のカートに乗ると身を乗り出して落ちそうになる。落ちたときは頭から床に落ちてしまい、こぶができたが通院するほどではなかったので様子を見た。	☆不注意
安全ベルトをししない	ショッピングカートに乗せるときにベルト部分が古くなっていて、ベルトをししないで乗せて買い物をしていたら、子供が前のめりになって転落した。 《その後の防止対策》 必ずベルトがあったら着けるようにしたり、子供が前のめりにならないように注意するようになった。	☆製品の経年劣化 ☆不注意
使用対象年齢未満	息子が1歳の時、ショッピングカートの対象年齢が2歳以上と書かれていたが、興味を持っていたので乗せてしまったら、サイズが合わず落下しそうになった。 《その後の防止対策》 対象年齢を守るようにした。	☆不注意

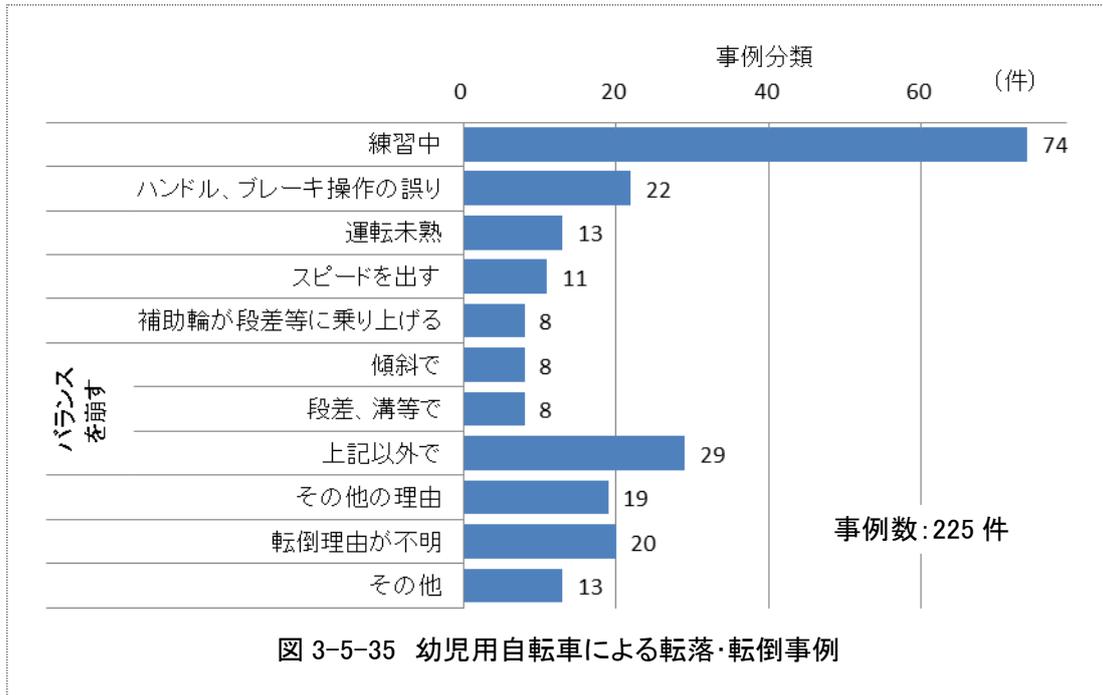
か) 自転車の幼児用座席



「乳幼児を乗せたまま離れる、目を離す」は 61 件である。  
 バランスを崩す事例が目立ち「乗降、荷物出し入れ中等」は 49 件、「発車、停車動作中」「重さで」は各 41 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
自転車に乗せたまま離れる	道に止めて自販機でジュースを買おうとして少し離れたところ、子供が動いてバランスを崩し、自転車とともに倒れた。	☆不注意
安全ベルトをしない	私が息子をおんぶして、子供を前に乗せたまま止めようとした時、こけてしまい前に乗っていた娘が放り出されてしまった。ベルトはしていなかった。その際に下にあった大きな石に前から突っ込んでしまい、娘は顎の骨を折り前歯は歯茎に埋もれてしまう大惨事となった。救急で口腔外科へ行き、その後は何度も大学病院へ通院することとなった。 《その後の防止対策》 乗車時は必ずヘルメット装着、ベルトをしっかりするようにした。	☆誤使用 ☆不注意
安全ベルトが外れる	電動アシスト自転車の前部分に息子(2歳)を乗せている時。冬だったのでダウンコートで安全ベルトがうまく着いていなかったようで、すり抜けてしまった。走行中、息子が立ち上がろうとしてヒヤットした。	☆不注意
幼児用座席が外れる	息子が3歳の時、自転車の幼児用座席が外れて落下したが、幸いにケガはなかった。 《その後の防止対策》 幼児用座席がちゃんと装着されているか、こまめにチェックするようになった。	☆製品構造に問題

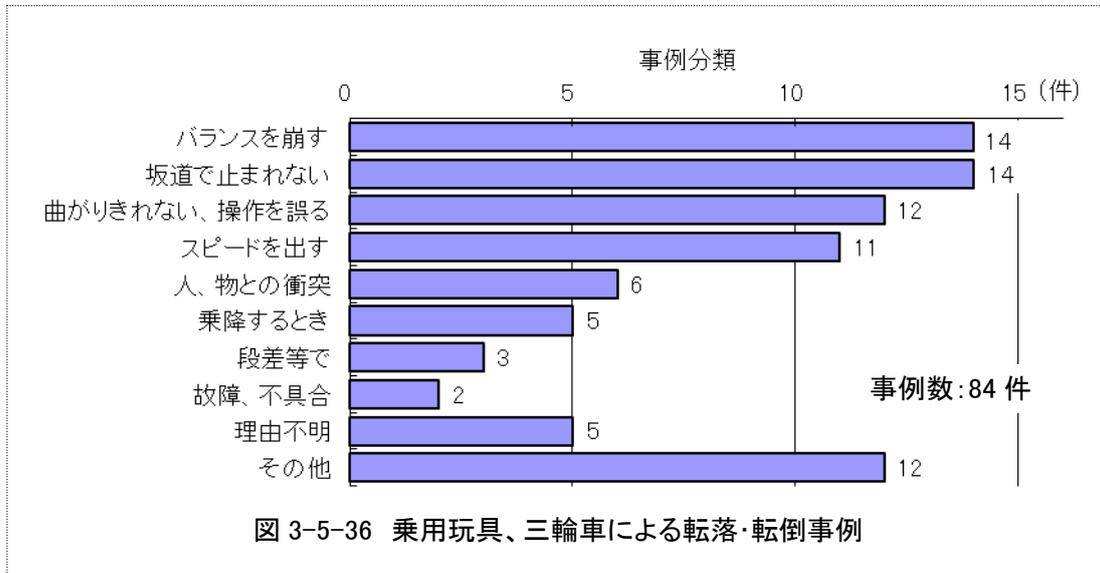
キ) 幼児用自転車



「練習中」が74件で最も多い。  
 バランスを崩す事例は45件(=8件+8件+29件)、「ハンドル、ブレーキ操作の誤り」は22件である。

主な事例等		保護者が考える原因
練習中	息子が6歳の時、補助輪を外した自転車の練習中、勢い余って電柱にぶつかり転倒。 《その後の防止対策》 ブレーキの掛け方を再度練習させた。	☆誤使用 ☆不注意 ☆練習中なので仕方がない
練習中、補助輪が縁石に接触	兄が自転車の練習をしている時に、カーブを曲がろうとして縁石に補助輪を接触させ、バランスを崩して転んでしまった。この時膝を少し擦りむいた。 《その後の防止対策》 慣れるまで常に横にしているようにした。	☆誤使用 ☆不注意
凸凹状態の道	凸凹の激しい道で補助輪の片方がとられて転倒した。 《その後の防止対策》 凸凹道では必ず補助ハンドルを親が持つようにした	☆製品構造に問題 ☆不注意
ブレーキの不具合	補助なしにした時、ブレーキが固く止まりきれず転んだ。 《その後の防止対策》 自転車屋で直してもらった。	☆製品の経年劣化

ク) 乗用玩具、三輪車



「バランスを崩す」「坂道で止まれない」が各 14 件で最も多い。

「曲がりきれない、操作を誤る」は 12 件、「スピードを出す」は 11 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
バランスを崩す	三輪車も意外とバランスがあって転倒しやすい。カーブ等是不慣れたと転倒していた。	☆不注意
坂道を下る	息子が 2 歳の時、乗用玩具で坂道を下り、頭からひっくり返ってしまった。 《その後の防止対策》 もともと、道路では使わないようにとの注意書きがあった。車体が軽いので、転倒しやすい構造ではあるのに、子供が坂道まで行ってしまったので、できるだけ庭だけで使わせるようにした。	☆製品構造に問題 ☆誤使用
スピードを出す	公園でペダルなし二輪遊具で遊んでいる際、小山から走り降りてくる時にスピードが出すぎて横滑りの形で転んだ。 《その後の防止対策》 小山等の急な斜面を下りないようにした。	☆不注意
段差でつまづく	三輪車で遊ばせていたとき、歩道の段差につまずいて顔から転倒した。ヘルメットは着けていたがその隙間を切り、また病院で顔を縫った。 《その後の防止対策》 その三輪車は屋内遊び専用にした。	☆不注意

ケ) ローラースケート、インラインスケート、キックスケーター  
 キックスケーターの事例が多い。小さな車輪が溝にはまる事例がある。  
 防止対策として、防具着用の必要を示す保護者が見られる。

主な事例等		保護者が考える原因
操作を誤る	子供が5歳の時、夜になったので家に入るよう子供を急かしていたが、遊びたいらしく全然戻ってこなかった。怒った口調で急かすと急いでキックスケーターで戻ってきたが、ハンドル操作を誤って急にストップが掛かってしまい体が前に投げ出され、顎の下を縫うほどのケガをした。	☆誤使用 ☆操作を焦らせた
溝に車輪がはまる	キックスケーターで遊んでいるときに、鉄製の格子状のふたに車輪がはまり転びそうになった。 《その後の防止対策》 子供に注意を促した。	☆不注意
練習中	上の娘が6歳の時、市販のローラースケートを買い公園で練習していたが、転んで頭を打ちそうになった。 《その後の防止対策》 ヘルメットをする。	☆誤使用 ☆不注意
防具を着ける	子供もアイスホッケーをやっているのので、インラインスケートは小さい頃から滑れるが、子供なのでよく転倒はしている。転倒しても大丈夫のようにヘルメット、エルボー、シンガードはするように言っている。 《その後の防止対策》 転倒はつきものだが、防具は着けさせる、公道では使わないを守る。	☆それをどこでやるかの問題で使用者側の問題。公道ではやらせない。

コ) エア遊具(はずんで遊ぶ空気で膨らませた遊具)  
 高所から転落する事例、勢いがついて転落する事例、想定外の反動で転落する事例がある。  
 他の子供に跳ね飛ばされる事例も見られる。

主な事例等		保護者が考える原因
高所	遊具の上から不注意で1.5mの高さから転落した。	☆不注意
勢いがつく	屋外のふわふわドームで勢いがつきすぎて滑り落ちてしまった。	☆不注意
エアの反動	子供がはしゃぎ、想定しない角度にぐにやりと凹み反動で転倒した。 《その後の防止対策》 親がよく見て注意する。	☆使い方の説明がない ☆誤使用
他の子供に跳ね飛ばされる	もうすぐ2歳という頃、大勢の子供が乗って跳ねる遊具に乗り、小学生の子に跳ね飛ばされ落下転倒した。 《その後の防止対策》 乗らない。	☆不注意

カ) 大型遊具(エア遊具以外の滑り台、ブランコ等)

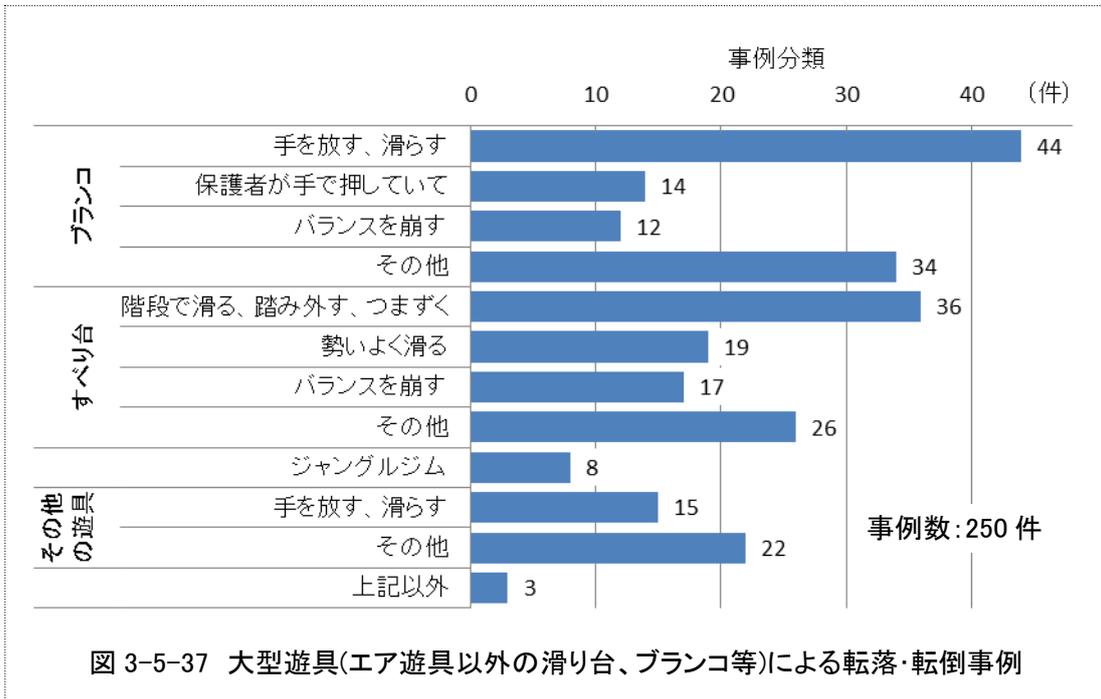


図 3-5-37 大型遊具(エア遊具以外の滑り台、ブランコ等)による転落・転倒事例

遊具の種類別では、ブランコの事例が 104 件(=44 件+14 件+12 件+34 件)で最も多い。このうち「手を放す、滑らす」が 44 件で最も多い。  
滑り台の事例では「階段で滑る、踏み外す、つまづく」が 36 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
手を放す	娘がブランコに乗っている時に、手を放してしまいブランコから落ちた。右手を骨折して3日入院して手術をした。半年ほど通院した。	☆誤使用
使用中のブランコの前に飛び出す	他の子がブランコで遊んでいる時に、代わって欲しくて動いているブランコに飛び出していった。 《その後の防止対策》 ブランコ待ちは一緒に待つようにした。	☆不注意
対象使用年齢未満	息子が 1 歳の終わり頃に、公園の滑り台で滑る途中(真ん中辺りで)横から落ちた。頭から落ちたが帽子を被っていたので酷いケガにはならなかった。普通の滑り台より角度が急で手すりも低く、「高速滑り台 6 歳以上」と書いてあることは知っていたが、いつも小さい子が皆遊んでいたのに気にせず遊ばせていた。 《その後の防止対策》 ある程度バランスが取れる年齢になるまでは、手を添えて滑った。	☆誤使用 ☆不注意
足が滑る	ジャングルジムを登っていて足が滑り、背中から落ちた。	☆不注意

シ) 家以外の階段

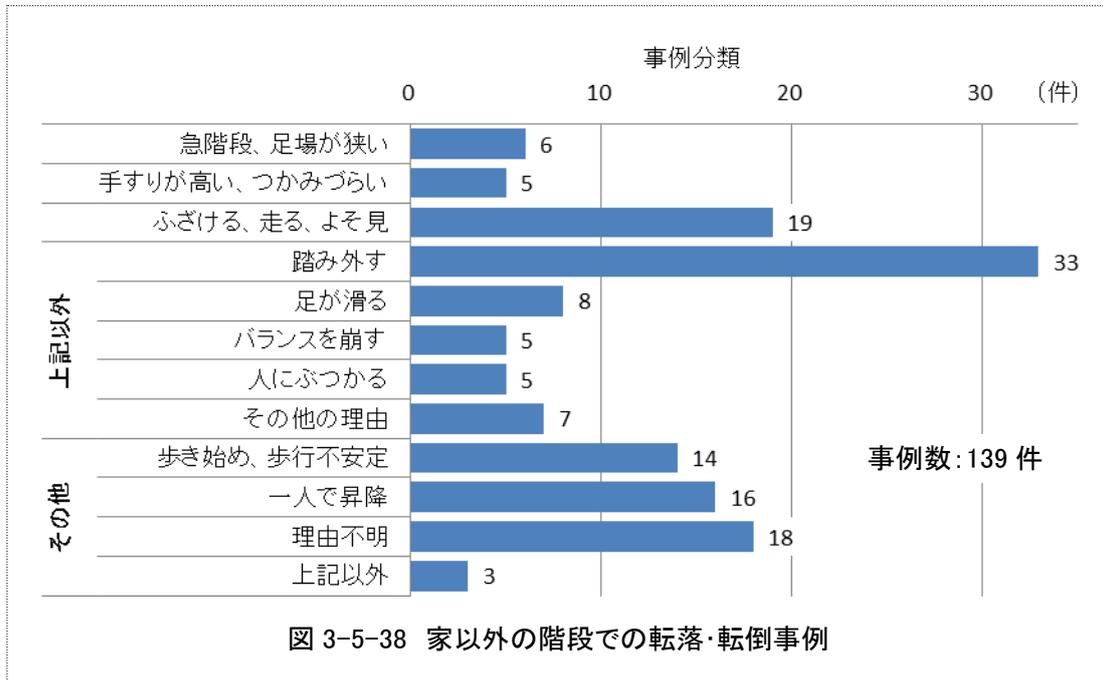


図 3-5-38 家以外の階段での転落・転倒事例

「踏み外す」は 33 件で最も多い。

「ふざける、走る、よそ見」は 19 件、「歩き始め、歩行不安定」は 14 件である。

「一人で昇降」は 16 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
踏み外す	公園のコンクリートの階段で息子が足を踏み外した。手のつながりが甘かったのか、つないでいた手が解けて 2,3 段転がった。額をぶつけて、あざとこぶができてしまった。 《その後の防止対策》 階段を歩くときは、手のつながりを強くした。	☆不注意
ぬれた階段で滑る	3 歳の娘がぬれた階段を登っていて足を滑らせて落ちてきたところを、後ろにいた母が抱きとめた。 《その後の防止対策》 階段でふざけないように注意した。	☆不注意
手すりが高すぎる	子供が階段の手すりを持って降りようとしたものの、手すりの位置が高く届きづらくて、却ってバランスを崩して最後の 4 段か 5 段くらいを転げ落ちた。普段手すりを使わなければ、一人で上手に階段の登り降りしているのだが、お店の人に「危ないから、ちゃんとつかんでね」とか言われて、手すりを無理に使おうとしたら失敗した。幸いケガはなかった。 《その後の防止対策》 高さの合わない手すりは、無理に使わなくていいと教えた。	☆製品構造に問題 ☆誤使用 ☆不注意
バランスを崩す	アパートの外階段で、私が 2 階のドアの鍵を開けている間の数秒に、息子が壁に寄り掛かっていたのがよろけて、そのまま壁後ろの外階段から下まで落下。自転車に乗せるため、あらかじめヘルメットを着けていたため無傷で済んだ。 《その後の防止対策》 1 階の居室のアパートに引っ越した。	☆不注意

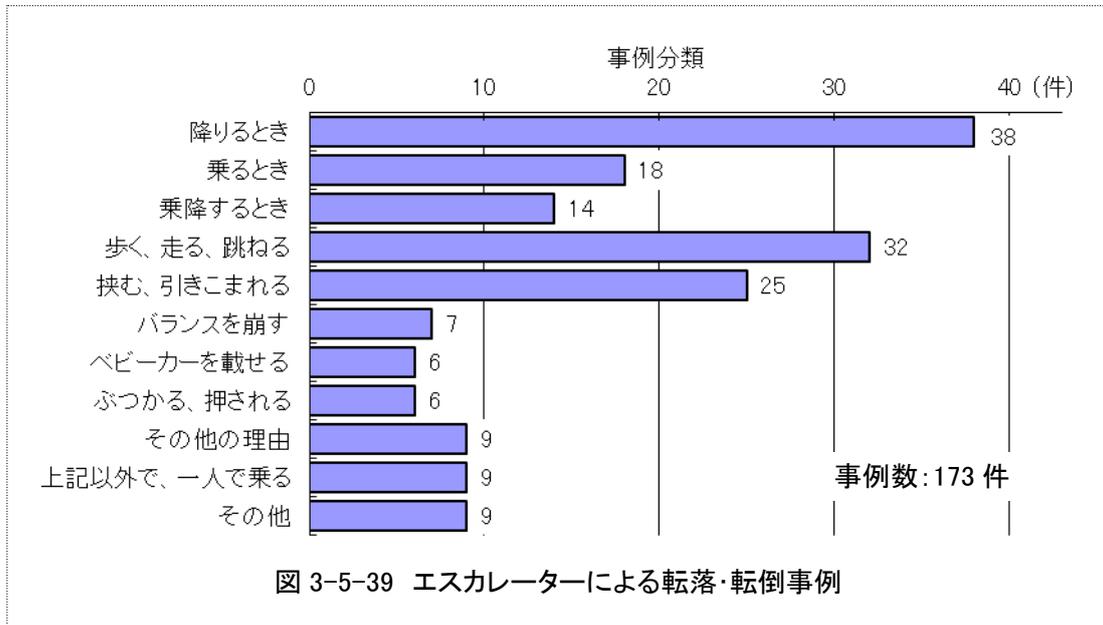
ス) エレベーター

溝や履物でつまずく事例、扉にぶつかり転倒する事例がある。

ベビーカーが扉に挟まり、乗っていた乳幼児が転落しそうになる事例もある。

主な事例等		保護者が考える原因
溝につま ずく	エレベーターに歩いて乗ろうとした際に、自動ドアの溝に足がはまり つまずきそうになった。 《その後の防止対策》 エレベーターに乗る際は支えるようにした。	☆不注意
サンダル でつま ずく	子供のサンダルがエレベーターに引っ掛けて転倒しそうになった。 《その後の防止対策》 サンダルを履いてのエレベーターは大人が注意深く誘導する。	☆不注意
扉にぶつ かる	仕事の帰り、自宅マンションのエレベーターを待っている時。自分の 荷物(パソコンが入っていていつもより重かった)、息子の保育園バッグ、 買い物帰りでお酒等重いものを同時に持っていて、とても疲れていた。 やっと1階にエレベーターが下りてきたとき、先にエレベーター内に入 って「開ける」ボタンを押すはずが「閉める」ボタンを押してしまい、 後から入ってきた息子が扉に跳ね返され、ひっくり返ってしまった。	☆誤使用
ベビーカ ーで挟ま る	ベビーカーに子供を乗せてエレベーターを降りようとしたとき、突然 エレベーターの扉が閉まりベビーカーが挟まってしまった。扉の衝撃で ベビーカーの子供が揺れ落ちそうになった。ベビーカーと子供をつなぐ ベルトが無かったら落ちていたかもしれない。	☆製品構造に問題

セ) エスカレーター

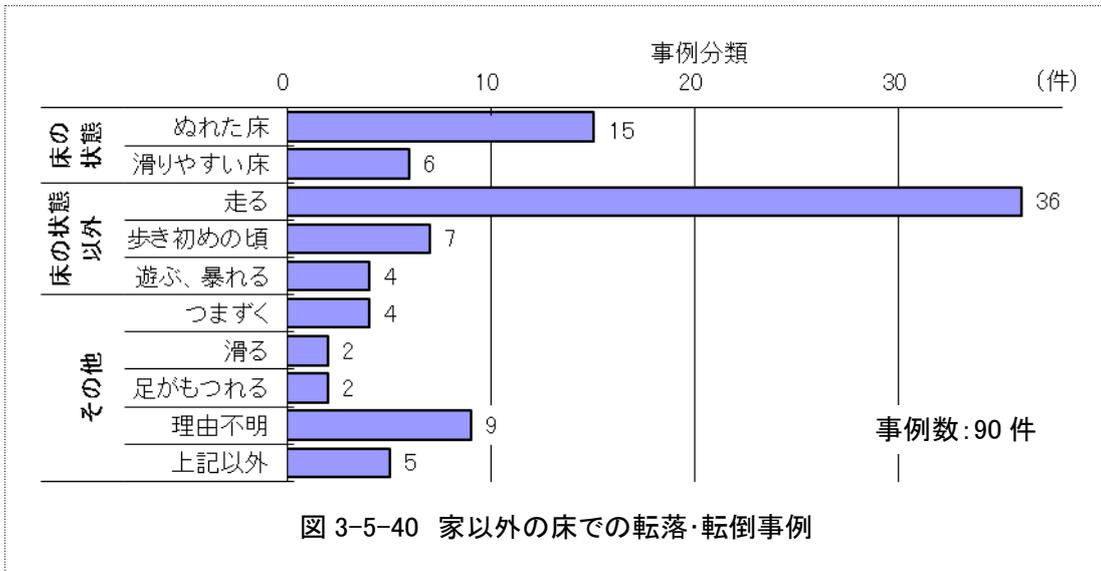


乗降に関する事例が 70 件 (=38 件+18 件+14 件) で最も多く、このうち「降りるとき」が 38 件である。

「歩く、走る、跳ねる」は 32 件、「挟む、引きこまれる」は 25 件である。

主な事例等		保護者が考える原因
降りるとき	エスカレーターの到達地点でバランスを崩し転んでしまい、近くにおじさんに助けられた経験があります。もう少しエスカレーターのスピードが遅ければいいと感じました。 《その後の防止対策》 子供と手をつないで乗ろうと思う。	☆製品構造に問題 ☆不注意
乗るとき	自分で乗りたがるようになり、しっかりと手を引いていたが、乗せた足を持っていかれてバランスを崩して転倒しそうになった。 《その後の防止対策》 混んでいるときは抱えて乗せ、空いていて自分で乗りたがる時はしっかりと手を引いた上で、少し強引にでも乗せるようにしたらバランスを崩しにくくなった。	☆不注意
走る	娘が 4 歳の時にエスカレーターに乗り、娘が一人で走って降りた。その時に転んで、もう少しのところまで手がエレベーターの巻き込み口に挟まることだった。ぞっとした。	☆不注意
バランスを崩す	2 歳の時にショッピングセンターでエスカレーターから転落しました。娘を端に立たせ、私はその 1 段後ろに立ち娘の肩に手を置いていました。エスカレーターが上階に差掛り左右の店舗が見えてきた時に、私が店舗に気をとられている一瞬、娘が手すりの下の部分に手を当てていて上体を崩し、私の体と手すりの 20cm ほどの隙間をすり抜けて後ろに転倒しました。平日で空いていたので 10 段ほど転がってしまい、途中で止まりました。エスカレーターは止まらなかったため、急いで抱えて上がりました。大泣きしていて、足に擦り傷もありましたが、幸い顔や頭に傷はなく、その後の体調も大丈夫そうだったので病院には行きませんでした。すぐ後ろに私が立っていたので、まさか転倒するとは思わず本当に怖かったし反省させられました。当時のエスカレーターのマナーに従い前後に並んだので手をつなぎませんでした。横に並んで手をつないでいれば良かったと思います。 《その後の防止対策》 それ以降は必ず手をつないでいます。	☆不注意

リ) 家以外の床



「走る」が36件で最も多い。  
 「ぬれた床」は15件、「滑りやすい床」は6件である。  
 「歩き初めの頃」は7件である。

主な事例等		保護者が考える原因
走る	子連れ5組くらいで外食に出掛けていた時、個室を予約して子供たちはテーブルの周りを走ったりしていた時、転んで角に額をぶつけた。	☆不注意
滑りやすい床	スポーツクラブの建物の外にある床がとても滑りやすく、雨が降ると必ず1人は滑って転んでいる子供を見ます。本当に大人でも怖いくらいでスケート場のような気分です。	☆製品構造に問題
つまずく	息子が2歳の頃、温泉ホテルのロビーでチェックアウトの手続き中、息子がロビーの人口池の縁につまずき池に落ちてしまった。しかも大理石製の縁におでこをぶつけ、2cmほどパッキリと割れて大出血。幸いホテル近くに救急病院があったため、すぐに処置してもらうことができた。	☆不注意
足がもつれる	通園中、足がもつれ顔面から転んだ。目の下をかなり擦りむきそのまま病院へ。完治までに半年ほどかかった。 《その後の防止対策》 ころぶときは、まず手をつくように教えた。	☆不注意

カ) 自動車

シートベルトをしていない事例、シートベルトを子供が外す事例がある。

乳幼児用のチャイルドシートを使わず、後部座席に座らせて転倒しそうになる事例もある。

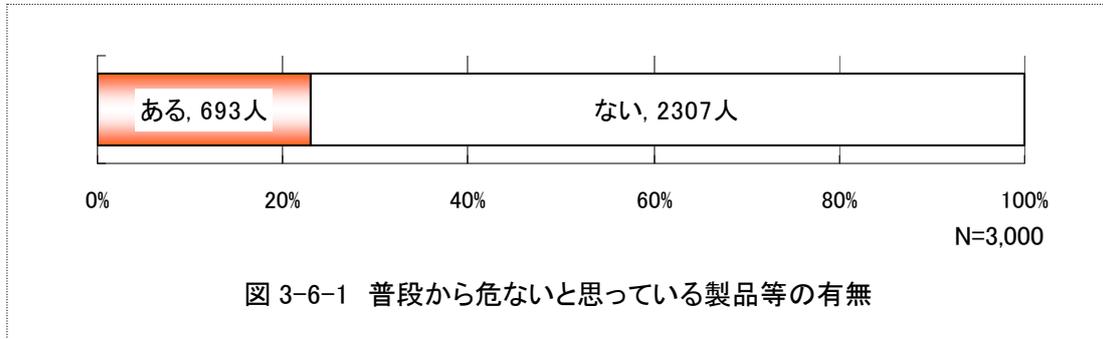
降車時に足を滑らせて転倒する事例も見られる。

主な事例等		保護者が考える原因
シートベルトをしていない	4歳児が後部座席に乗車中、急ブレーキで椅子から転落。というか前まで飛び出してきた。幸いケガはなかった。 《その後の防止対策》 近い距離でもベルト着用を完全履行するようにした。	☆不注意 ☆シートベルト不着用
シートベルトを外す	自分でチャイルドシートを外してしまい、車が止まった際に頭を打ちケガをした。 《その後の防止対策》 チャイルドシートのベルトをきつくした。	☆不注意
後部座席に座らせる	息子が1歳の時、長時間の乗車にぐずりだし、やむを得ずチャイルドシートから降ろして私と一緒に後部座席へ座っていた際、夫が急ブレーキを掛け子供が転倒しかけた。 《その後の防止対策》 必ずチャイルドシートに乗せる。	☆誤使用 ☆不注意
降車時	車から降りる際は親が手を差し伸べて抱くのだが、「自分で降りる」と言い張った挙句、足を滑らせて落ちた。足からの着地であったが、ドアの開閉部に手を挟むことも加えてヒヤッとした。	☆不注意

## (6) 危ないと思っている製品等

乳幼児が利用するものにおいて、普段から危ないと思っている製品等の有無を聞いた。

保護者の2割以上が「ある」と回答した。



「ある」と回答した保護者に、危ないと思っている製品等について聞いた。危ないと思っている製品等のうち、上位10製品等を表3-6-1に、11位以下の製品等を表3-6-2に示す。

上位10製品等の具体的な内容を、表3-6-3に示す。

表 3-6-1 危ないと思っている製品等  
～上位10製品等～

順位	製品等名	件数 (件)
1	幼児が運転する自転車と乗用玩具 キックスケーター、ペダルなし二輪遊具、三輪車を含む	99
2	遊具 ブランコ、滑り台、シーソー他	76
3	自転車の幼児用座席	50
4	子供を乗せた自転車	45
5	細く尖ったもの 歯ブラシ、おもちゃ他	44
6	ドア	42
7	刃物類 包丁、はさみ、つめ切り他	28
8	ベビーカー	27
9	子供用椅子	26
10	コンセント、電気コード	25

回答者数:693人 自由記述式(複数製品等の回答可)

表 3-6-2 危ないと思っている製品等  
～11 位以下～

(子供用品系) 子供用品、おもちゃ、ローラーシューズ、自動車用チャイルドシート、抱っこひも及びおんぶひも、首浮き輪、ヘルメット、オートスイング、バウンサー
(家庭用品系) 椅子(子供用以外)、ベッド、踏み台、ソファ、コンロ、紙、靴下
(建物施設系) エスカレーター、エレベーター、階段、窓、風呂
(乗物系) 自動車、自転車(その他一般)、駅(ホームと電車の隙間他)、電車
(その他) 誤飲するおそれがあるもの、やけどのおそれがあるもの、角があるもの、首に絡まるおそれがあるもの、すべてのもの、ショッピングカート

表 3-6-3 危ないと思っている製品等  
自由記述文

分類	内容
幼児が運転する自転車と乗用玩具	(幼児用自転車) 幼児用自転車にしてはブレーキが固く掛けにくいという感じがある。男の子なら力があるため強く握れるが、女の子の力では握る際の力が弱いため、ブレーキ不足が生じる。
	(補助輪付自転車) 娘の自転車は補助輪が浮いていて、どっちなかに重心が掛かったときに転倒してしまう。補助輪が浮かないようにして欲しい。
	(キックスケーター) ブレーキが子供や大人用と同じく後輪の上を踏むタイプで付いている。幼児が後ろ足でタイヤを踏みつけてブレーキを掛けることは難しいので自転車のようなブレーキにして欲しい。ブレーキを使いこなせないで、スピードが出ると飛び降りて走りながら止まっている。自分も走りながら止まるのは危ない。
	(キックスケーター) タイヤが小さく外ではちょっとした段差でも転倒しそうになるので、もう少しタイヤの大きいものがあったら使いやすいのではと思っています。
	(ペダルなし二輪遊具) 公園等で他の子供たちが乗っているのをよく見るが、ブレーキがないのにスピードは出る。公道での使用は論外だが、公園等でも場所を選ばないと周囲を巻き込む事故を起こしそう。
	(その他乗用玩具) 後ろから押しているとき、車のタイヤ横にある隙間に足の親指が挟まった。大人からしてみればこんな隙間に？と思うような 5mm もないようなところだったが、丁度子供の親指が入って爪が割れて血が出てしまった。今はその隙間にスポンジ状のものを張って入らないよう自分で対策している。意外なところで子供の指が挟まったり入ったりして、思わぬ事故につながるのだからチェックして欲しい。

分類	内容
遊具	<p>(ブランコ)</p> <p>最近では乳幼児用の保護具付きのブランコもたくさんあるが、従来型のブランコしかない公園では仕方なくそれを使用することになる。しかし、どんなにゆっくり揺らしたとしても1歳2歳くらいの乳幼児では、すぐに転落しそうになってしまう。もっと簡単に握れるような持ち手を付けたり、取り外し可能な保護具を設置する等して対策して欲しい。</p>
	<p>(滑り台)</p> <p>滑り台最上部の手すりが低いと感じるものがある。最上位部分は転倒防止に柵のようなもので囲んで欲しい。</p>
	<p>(シーソー)</p> <p>親も必ず一緒に座っていないと転落しそうで危ないといつも思う。片方に親が座り、もう片方に子供が座っても重さが違いすぎて一緒には遊べないし、小さな子供には向いていないと思った。転落防止用のベルト等があれば安心。</p>
	<p>(公園の遊具)</p> <p>落ちて大丈夫なように、ネットやふかふかのマット等をして欲しい。</p>
自転車の幼児用座席	<p>子供が2歳半で大きくなってきたので、子供を後ろに乗せるタイプのもので変えたら、ベルトが子供の力でも外せてしまって乗っている時にカチャカチャ外していた。大人の手でしか外せないものにして欲しい。</p>
	<p>我が家で使っている自転車用の幼児用座席は、子供の体を支えるのがシートベルトしかなく、子供が寝てしまって、首や体が倒れると幼児用座席から体や首がはみ出してしまう。子供が自転車で寝てしまう年(1歳頃)は狭い道を通ったり、他の自転車とすれ違ったりする際に、子供がぶつかってしまうのではないかとかなりハラハラした。ウエスト辺りにバーを取り付ける等して、子供が寝てしまっても体がシートからはみ出さない工夫をして欲しい。</p>
	<p>自転車のロックベルトですが、雨風にさらされたベルトの劣化が早く、気づいた時に壊れている。付属の部分だけの交換部品等が欲しいです。2,3年で劣化は早いと思いました。</p>
子供を乗せた自転車	<p>ハンドルに子供の重さが掛かると操作、特に取り回しが難しくなる。もともと組み込んだ形のものならともかく、バランスが取りにくく転倒しやすい。重心をもっと下にするなり、ハンドル操作を補助するものを付けるなりできないかと思う。</p>
	<p>電動アシスト自転車は車体が重たいので、押し歩きするときにはバランスを崩して転倒しそうになることがよくある。もう少し車体が軽くなるように工夫して欲しい。</p>
	<p>自転車に子供を乗せたまま買い物に行く人や、ヘルメットを被っていない子供が多いので、転倒したときに危ないと思う。ヘルメットは必修にした方がいいと思う。</p>

分類	内容
細く尖ったもの	<p>私が小さいときに、乳児だった妹が 30cm の竹製定規を手に座って遊んでいた。何かの弾みで前のめりとなり、それが口へ。定規が口内上部を傷つけ、しばらく入院することになった。その時の光景を鮮明に覚えているためか、自分の娘が固く細長いものを持って遊んでいた、特に物を持って歩いたり座っているときは、特に注意している。</p>
	<p>喉を突く事故がよくあると聞く。歯の生えはじめ用の歯ブラシは喉を突かないようにするガードが付いたものがあるが、それ以降はガードがない。1歳半の今も危なっかしいのでガードが付いたものがあるといい。</p>
	<p>刀のような長いおもちゃは先が鋭利なので、丸みをつけるかゴムパットを施して欲しい。</p>
ドア	<p>扉の閉まる部分だけでなく、接続部分の隙間に手を入れてしまうことがあり心配。</p>
	<p>自宅のリビングのドアにアンダーカットがある。隙間の幅は 1cm 程度で子供の指が挟まりそうな高さになっている。換気のために必要なのはわかるが、引き戸、折れ戸にして欲しい。</p>
	<p>全てではないが、小さい子供に反応しない自動ドアがある。自動ドアが閉まる際に開閉スピードを遅くして欲しい。</p>
刃物類	<p>のこぎりのように前後させて切るようになっている子供用の包丁。切れ難い仕組みだとは分かっているが、力いっぱい動かして切ろうとする姿を見ると、やはりケガをしそうに思う。料理に興味を持っているので子供用包丁はありがたいが、本来の包丁とは使い方も違うし、大人と同じような使い方では切れ味の良くないようなものがあれば、ケガもしにくいし本来の包丁の使い方も学べるのと思う。</p>
	<p>はさみの使い方を覚えたのはいいことだが、自分の手も切りそうで怖いと思った。安全ガード等、ケガを防止する装置を装備して欲しい。</p>
ベビーカー	<p>安全ベルトをしても簡単にすり抜けられてしまうし、きつくするとベルトを嫌がる。安全ベルトをするのが楽しくなるような構造にして欲しい。また、寝ていると足がベビーカーのタイヤに巻き込まれそうになり、危ないのでタイヤカバー等があればいいと思う。</p>
	<p>赤ちゃんが乗るタイプではなく、少し大きくなったら乗るタイプ。振動に対して比較的弱いので、子供自らベビーカーを揺らして倒れてしまったことがあった。振動に対して強いベビーカーができるとありがたいです。</p>
子供用椅子	<p>ハイチェアは傾き防止のストッパーなり支えなり、付属品で購入者が利用するかしないかを選択できるようにして欲しい。男の子と女の子、性格によって動きかたが子供によって違う。</p>
	<p>飲食店のソファ席等の上に子供用の椅子を置いて、子供を座らせるように薦められるが、その椅子はすっぽり体が収まったまま前のめりになると倒れやすい。ソファ席の上に乘せて使うと、高いところから転倒してケガをするおそれがあるので使わせないで欲しい。</p>
コンセント、電気コード	<p>子供が興味本位で何かを入れてしまわないかが心配。カバーもあるが根本的な対応をしてもらいたい。</p>
	<p>足を引っ掛けたりして転倒したり、引っ張って電化製品を落としたりと、何かと危険だから。特に、一人で遊んで首に引っ掛けたりしている状況もあるので、コード関係は触れないようにしています。</p>

## 4 まとめ

乳幼児は危険に対して大人ほど認識していない。また身体のバランスは大人ほど備わっていない時期である。高い場所から転落・転倒したときは、ぶつかったものや接触したものによって擦りむく以上のケガに至る危険が考えられる。

転落・転倒は乳幼児に身近な危険である。製品の使い方を誤ったり、乳幼児への配慮を怠ることがないように、保護者等、乳幼児が身の回りにいる方は十分注意して危険にあわないようにして欲しい。

製品等を提供する事業者等は、危害、ヒヤリ・ハット事例や保護者の要望等を製品等の改良に反映し、事故防止に貢献して欲しい。

### ●参考

東京都福祉保健局 WEB サイト

乳幼児期の事故防止学習ソフト

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/shussan/nyuyoji/jikoboushi.html>

## 5 結果の活用

- (1) プレス発表、ホームページ、ヒヤリ・ハットレポートを通し、調査結果を都民へ結果を情報提供し、事故の未然防止を図る。
- (2) 商品の安全性に関する調査を実施する際に活用する。